

調布市民福祉ニーズ調査

報告書

－概要版－



令和 5（2023）年 3 月
調布市

目次

調査の概要・報告書の見方	1
1 調査の目的	1
2 アンケート調査の実施概要	1
3 住民懇談会の実施概要	3
4 報告書（概要版）の見方	5
5 居住地域の分類について	6
アンケート調査の結果の概要	7
第1章 調査間での共通質問の結果	7
第2章 市民（18歳以上）調査結果	19
＊手助けしてほしいこと、手助けできること	20
＊地域活動・ボランティア活動の取組状況、今後の取組意向	21
＊地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件	22
＊地域活動・ボランティア活動の参加で重視すること（動機）	23
＊複合的な課題を抱えた世帯の認知状況	24
＊地域の中での不安や課題	24
＊地域のつながりに対する考え方	25
＊市内のバリアフリー化の状況	26
＊今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）	27
第3章 高齢者（65歳以上）調査結果	28
＊「高齢者」を意識する年齢	28
＊認知症予防、フレイル予防の取組状況	29
＊高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度	29
＊認知症対策の取組	30
＊介護者支援策への意向	31
＊サードプレイス（居場所）の必要性、希望	31
＊就労状況	32
＊避難が一人でできるか	32
＊今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）	33
第4章 障害者（18歳以上）調査結果	34
＊同居の家族構成	35
＊医療機関の受診で困ること	35
＊今後の居住形態の意向	36
＊避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況	36
＊生活上の活動機会の有無	37

*スポーツ・運動をする頻度	40
*コロナ禍による暮らしへの影響	41
*心のバリアフリーの普及に必要な取組	43
*暮らしや外出時の差別, 偏見, 配慮の有無	44
*介助者の不安	45
第5章 障害児(18歳未満)の保護者調査結果	46
*生活上の活動機会の有無	46
*スポーツ・運動をする頻度	47
*子どもの日常生活に関する不安	47
*医療機関の受診で困ること	48
*コロナ禍による暮らしへの影響	49
*介助の不安	50
*本人の介助できょうだいの不安や困りごと	51
*参加しやすい地域活動の種類	52
*地域活動・ボランティア活動への取組意向	52
*避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況	53
*緊急時の情報入手先	53
*心のバリアフリーの普及に必要な取組	54
*暮らしや外出時の差別, 偏見, 配慮の有無	55
*市の保健福祉情報の入手先	55
住民懇談会の結果の概要	56
調査のまとめ	60
第1章 地域別のまとめ	60
第2章 アンケート調査から見えた課題	68
第3章 住民懇談会から見えた課題	72

調査の概要・報告書の見方

1 調査の目的

本調査は、国や調布市の動向を踏まえ、アンケート調査及び住民懇談会により市民の生活実態や福祉に対する意識、意見、ニーズ等を把握し、次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」を策定する際の基礎資料等とすることを目的とする。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 調査方法

- 調査票の郵送配付
- 調査票による郵送回答／専用ウェブサイトからのインターネット回答（回答者が選択）
- 督促礼状を対象者全員に1回送付

(2) 調査期間

令和4年10月13日（木）～ 令和4年10月31日（月）

(3) 調査の一覧

調査名	調査対象		調査人数	回答数（回答率） [内訳：郵送，WEB]
誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18 歳以上の市民（市内在住）		2,000 人	815 人（40.8%） [602 人， 213 人]
高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	65 歳以上の市民（市内在住）		2,000 人	1,203 人（60.2%） [1,131 人， 72 人]
障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18 歳以上の障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証所持者	①身体障害者手帳所持者（64 歳以下）	400 人	213 人（53.3%） [158 人， 55 人]
		②身体障害者手帳所持者（65 歳以上）	400 人	237 人（59.3%） [229 人， 8 人]
		③愛の手帳所持者	300 人	182 人（60.7%） [168 人， 14 人]
		④精神障害者保健福祉手帳所持者	400 人	177 人（44.3%） [128 人， 49 人]
		⑤難病患者	300 人	172 人（57.3%） [143 人， 29 人]
子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18 歳未満の障害者手帳や児童福祉通所受給者証所持者の保護者		200 人	130 人（65.0%） [90 人， 40 人]
合計			6,000 人	3,129 人（52.2%） [2,649 人， 480 人]

3 住民懇談会の実施概要

(1) 実施概要

実施目的	地域住民，高齢者，障害者の生活実態や福祉に対する意識・意見を把握し，今後の市の福祉施策や次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」の策定の基礎資料等とすることを目的に，地域住民等が日頃の想いや感じていることを話し合い，考え合う場として開催し，住民主体の交流活動の場等を充実させていく契機とする。
実施回数	全 4 回（1 回×2 圏域）
実施時間	1 時間 45 分／回
実施手法	○少人数に分かれたグループディスカッション形式の懇談会を実施 ○K J 法により，テーマごとに模造紙にまとめて結果を共有

(2) 開催日程・会場等

圏域	日時	会場
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	令和 4 年 10 月 29 日（土） 午前 10 時～午前 11 時 45 分	緑ヶ丘地域福祉センター／大集会室 （緑ヶ丘 2-18-49）
第一・富士見台・多摩川 小学校地域 第三・石原・飛田給 小学校地域	令和 4 年 11 月 6 日（日） 午前 10 時～午前 11 時 45 分	文化会館たづくり／9 階研修室 （小島町 2-33-1）
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地 域	令和 4 年 11 月 12 日（土） 午前 10 時～午前 11 時 45 分	ふじみ交流プラザ／1 階集会室 1～3 （深大寺東町 7-47-1）
第二・八雲台・国領小学 校地域 染地・杉森・布田小学校 地域	令和 4 年 11 月 19 日（土） 午前 10 時～午前 11 時 45 分	市民プラザあくろす／3 階ホール （国領町 2-5-15）

※8 つの福祉圏域のうち，2 圏域ずつ合同で開催

(3) 参加人数

圏域	地域の活動団体等	自治会	地区協議会	民生委員・児童委員	福祉関係機関	地域住民	その他	合計(人)
緑ヶ丘・滝坂小学校地域	2	-	-	1	-	3	-	6
若葉・調和小学校地域	-	-	-	-	2	1	-	3
上ノ原・柏野小学校地域	-	-	-	2	3	2	1	8
北ノ台・深大寺小学校地域	3	1	1	1	1	2	-	9
第二・八雲台・国領小学校地域	4	2	1	4	1	2	1	15
染地・杉森・布田小学校地域	4	2	2	3	3	2	-	16
第一・富士見台・多摩川小学校地域	2	-	1	2	2	2	-	9
第三・石原・飛田給小学校地域	5	-	-	-	3	1	-	9
合計	20	5	5	13	15	15	2	75

(4) 募集方法

方法	概要
広報	- 市報（令和4年10月5日号） - 市ホームページ（令和4年10月7日～11月19日）
案内チラシ	- 調布市社会福祉協議会（地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員）を通じて配布 - アンケート調査票に同封（令和4年10月13日発送）
その他	- 民生児童委員協議会に周知 - 地域包括支援センターに周知 - 市内の障害児・者通所施設に周知 - 市内の障害者相談支援事業所に周知 - 地域福祉推進会議委員・障害者総合計画策定委員会委員に周知

☆案内チラシ



(5) 懇談会のテーマ

懇談会のテーマ

『誰でも気軽に集まる・話せる
地域の「場所」や「時間」をふやそう』

話し合う3つのテーマ

- ①誰もが気軽に集まれる場所・空間・雰囲気・条件
- ②集まってできたらいいこと・したいこと
- ③集まりを知らせる方法、参加・提供する仲間を増やす方法・情報



4 報告書（概要版）の見方

○ 「回答者数」について

それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN（Number of cases），それ以外の場合にはnと表記している。

○ 図表の単位について

回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示している。％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。

なお、回答者が1つ回答することのできる質問（単数回答）については、％の合計が100.0%になるように調整している。また、回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、％の合計は100.0%にならない場合がある。

○ 問番号について

概要版は全体版から主な調査結果を抜粋したものであるため、問番号が連番となっていない。

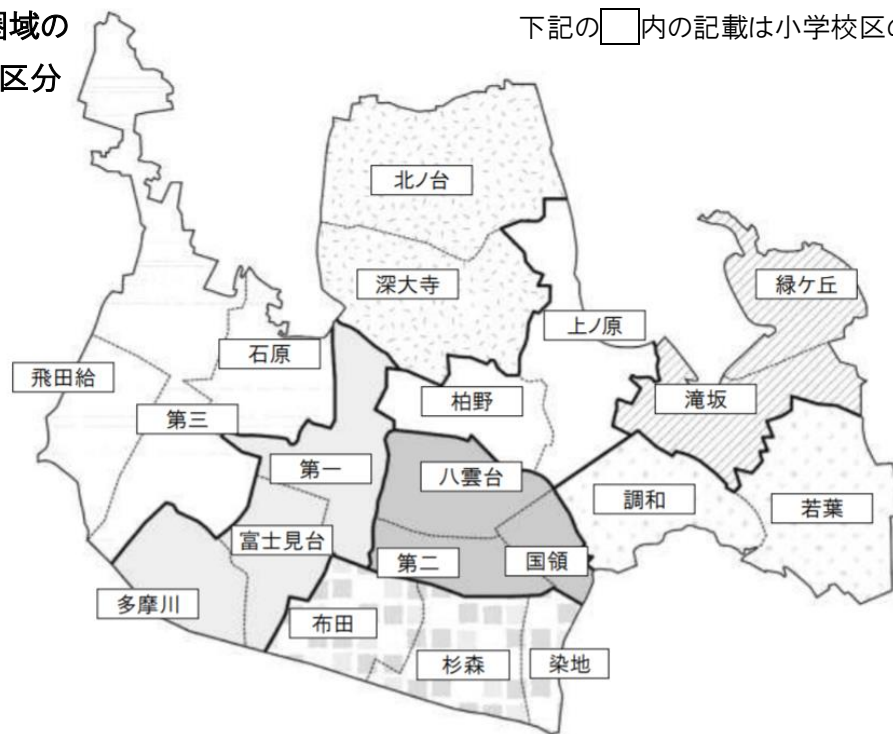
5 居住地域の分類について

市内を8つの福祉圏域に区分している。

なお、実際の福祉圏域は、小学校区を基礎としているため、地番まで区分されている地区もあるが、本調査では、下記表に掲げる地区により集計している。

■福祉圏域の 地域区分

下記の□内の記載は小学校区の名称



図表 市内の福祉圏域区分

福祉圏域名	福祉圏域に属する地区			
緑ヶ丘・滝坂小学校地域	東つつじヶ丘1丁目, 2丁目		緑ヶ丘	仙川町
	西つつじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目		若葉町1丁目	
若葉・調和小学校地域	東つつじヶ丘3丁目		菊野台	入間町
	西つつじヶ丘4丁目		若葉町2丁目, 3丁目	
上ノ原・柏野小学校地域	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目		調布ヶ丘3丁目	柴崎
	深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目		深大寺東町3丁目, 4丁目	
北ノ台・深大寺小学校地域	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目			深大寺北町
	深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目			深大寺南町4丁目, 5丁目
第二・八雲台・国領小学校地域	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目			佐須町3丁目
	布田2丁目, 3丁目	調布ヶ丘2丁目		八雲台
染地・杉森・布田小学校地域	国領町6丁目, 7丁目		布田5丁目, 6丁目	
	多摩川6丁目, 7丁目		染地	
第一・富士見台・多摩川小学校地域	多摩川1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目			調布ヶ丘1丁目, 4丁目
	布田1丁目, 4丁目	深大寺元町1丁目	下石原1丁目	小島町
第三・石原・飛田給小学校地域	上石原		富士見町	西町
	下石原2丁目, 3丁目		飛田給	野水

アンケート調査の結果の概要

第1章 調査間での共通質問の結果

1 近所付き合い

①近所付き合いの状況、近所付き合いをしていない理由

【市民、高齢者】

近所付き合いは、どの程度していますか。（主なもの1つに○）

- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は、市民 36.1%，高齢者 53.4%となっている。

図表_近所付き合いの状況（%）

	親しくしているなど、家を行き来する程度	立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所付き合いをしていない	無回答
市民 (N=815)	8.7	27.4	53.1	9.9	0.9
高齢者 (N=1203)	13.3	40.1	39.1	6.7	0.8

付問 「近所付き合いをしていない」と答えた人におたずねします。近所付き合いをしていない理由は何ですか。（いくつでも○）

- 近所付き合いをしていない理由は、市民、高齢者ともに「普段、付き合う機会がないから」が最も多く、市民は7割、高齢者は5割台となっている。

図表_近所付き合いをしていない理由（%）

	仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから※	引っ越してきて間もないから	普段、付き合う機会がないから	同世代の人が近くにいないから	気の合う人や話の合う人が近くにいないから	あまり関わりをもちたくないから	その他	無回答
市民 (n=81)	18.5	2.5	70.4	13.6	18.5	29.6	6.2	4.9
高齢者 (n=80)	13.8	17.5	51.2	8.8	8.8	17.5	16.3	3.8

※高齢者アンケートの選択肢は「仕事や学業などで忙しく時間がないから」

2 共助意識，地域活動

①手助けを「してほしい」事柄，手助けを「できる・してもいい」事柄

【市民，高齢者】

あなたは次の事柄について，家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また，まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。

①手助けしてほしいか，②手助けできるかについて，それぞれ1つに○を付けてください。

- 家族以外のまわりの人から手助けを「してほしい」事柄について，また，手助けを「できる・してもいい」事柄の上位は，順位の違いはあるものの，市民，高齢者ともに『安否確認の声かけ』，『災害時避難の手助け』，『具合がよくない時に病院などに連絡する』となっている。

図表_手助けを「してほしい」の割合（％）

		安否確認の声かけ	出ち しよつ とした 買い物 やごみ	食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手 伝 い	通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手 助 け	子 ど も の 預 か り	話 し 相 手 や 相 談 相 手	災 害 時 避 難 の 手 助 け	ど に 具 合 が よ く な い 時 に 病 院 な ど に 連 絡 す る
市民	(N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
高齢者	(N=1203)	41.0	14.0	7.6	13.3	4.0	23.9	56.9	40.1

図表_手助けを「できる・してもいい」の割合（％）

市民	(N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
高齢者	(N=1203)	59.9	37.6	14.3	19.0	13.1	40.4	51.1	52.9

②地域活動・ボランティア活動の取組状況と今後の取組意向

【市民，高齢者】

市内では多くの地域活動・ボランティア活動が行われています。①あなたは，次のような活動に取り組んでいますか，②今後，次のような活動に取り組みたいです。か。（それぞれ1つに○）

- 地域活動・ボランティア活動で「取り組んでいる」活動をみると，市民は『趣味・習いごとなどの活動』が最も多く，『子育て世帯・青少年を支援する活動，子ども会やPTAの活動』が続いている。高齢者も『趣味・習いごとなどの活動』が最も多く，『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動』が続いている。
- 関心のある分野（取り組みたい，興味がある）について，市民，高齢者ともに『趣味・習いごとなどの活動』，『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動』，『地域の環境美化，環境保全・自然保護などの活動』を上位に挙げている。

図表_地域活動・ボランティア活動の取組状況 (%)

		子育て世帯・青少年を支援する活動、子ども会やPTAの活動※	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
市民	(N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9
高齢者	(N=1203)	2.4	3.6	2.6	6.7	3.1	4.7	6.3	14.0	22.4

図表_地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向 (%)

市民	(N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9
高齢者	(N=1203)	9.2	14.5	11.1	14.9	17.5	23.2	24.4	16.0	32.3

※高齢者アンケートの選択肢は「子育て世帯・青少年を支援する活動」

【障害者（18歳以上），障害児保護者】

あなたは今後、地域活動・ボランティア活動に取り組みたいですか。（1つに○）

- 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、身体障害（64歳以下），難病，障害児保護者は「機会があれば，取り組んでもよい」が最も多く，3割を超えている。
- 身体障害（65歳以上）は「取り組みたいが，できない」，知的障害と精神障害は「あまり取り組みたくない」が最も多くなっている。

図表_地域活動・ボランティア活動の取組意向 (%)

			積極的に、取り組んでいきたい	できるだけ、取り組んでいきたい	機会があれば、取り組んでもよい	取り組みたいが、できない	あまり取り組みたくない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）	(N=213)	1.9	12.2	33.8	16.0	30.0	6.1
	身体障害（65歳以上）	(N=237)	1.3	9.7	24.9	29.5	24.1	10.5
	知的障害	(N=182)	2.7	8.2	27.5	17.6	39.0	4.9
	精神障害	(N=177)	0.6	8.5	30.5	16.9	38.4	5.1
	難病	(N=172)	2.9	8.1	39.5	19.2	23.3	7.0
障害児保護者		(N=130)	3.1	10.0	41.5	20.8	21.5	3.1

3 新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響

【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

新型コロナウイルス感染症の流行により，あなたの暮らしにどのような影響がありましたか（影響があった時期は問いません）。（それぞれ1つに○）

「増えた」こと

- 新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしにおいて，「増えた」ことをみると，市民は『興味や関心のあることに充てる時間』，高齢者は『自宅での趣味・学習・教養などに充てる時間』，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），精神障害，難病は『人と電話やラインなどで話す頻度』，知的障害と障害児保護者は『趣味や好きなことをする時間』が最も多くなっている。

図表_新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響（%）

<「増えた」項目>

		1位	2位
市民	(N=815)	興味や関心のあることに充てる時間（28.2）	人と電話やLINEなどで話す頻度（22.5）
高齢者	(N=1203)	自宅での趣味・学習・教養などに充てる時間（21.5）	家族との会話や連絡の頻度（電話などを含む）（18.6）
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）	(N=213)	人と電話やラインなどで話す頻度（17.8）
	身体障害（65歳以上）	(N=237)	人と電話やラインなどで話す頻度（12.2）
	知的障害	(N=182)	趣味や好きなことをする時間（12.6）
	精神障害	(N=177)	人と電話やラインなどで話す頻度（17.5）
	難病	(N=172)	人と電話やラインなどで話す頻度（13.4）
障害児保護者	(N=130)	趣味や好きなことをする時間（16.2）	スポーツ・運動などで体を動かす時間（3.8） 保護者の休息（レスパイト）の機会（3.8）

「減った」こと

- 「減った」ことをみると、市民、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は『人と直接会って話す頻度』，高齢者は『体力・筋力』，障害児保護者は『保護者の休息（レスパイト）の機会』となっている。

図表 新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響（％）

<「減った」項目>

		1位	2位
市民 (N=815)		人と直接会って話す頻度 (70.6)	興味や関心のあることに充てる時間 (16.9)
高齢者 (N=1203)		体力・筋力 (50.1)	趣味活動や社会参加の外出の頻度 (スポーツ・ボランティア・通いの場など) (47.9)
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (N=213)	人と直接会って話す機会の頻度 (61.5)	スポーツ・運動などで体を動かす時間 (34.3)
	身体障害 (65歳以上) (N=237)	人と直接会って話す機会の頻度 (58.2)	人と電話やラインなどで話す頻度 (30.8)
	知的障害 (N=182)	人と直接会って話す機会の頻度 (41.8)	仕事や通所以外での外出回数 (34.1)
	精神障害 (N=177)	人と直接会って話す機会の頻度 (55.9)	仕事や通所以外での外出回数 (40.1)
	難病 (N=172)	人と直接会って話す機会の頻度 (62.2)	仕事や通所以外での外出回数 (31.4) スポーツ・運動などで体を動かす時間 (31.4)
障害児保護者 (N=130)		保護者の休息 (レスパイト) の機会 (48.5)	スポーツ・運動などで体を動かす時間 (44.6)

4 相談支援

①困ったときの身近な相談相手（人・機関）

【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。（いくつでも○）

- 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は，市民，高齢者ともに「同居の家族」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病，障害児保護者ともに「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が多くなっている。
- 一方，「身近に相談できる人や機関はない」または「相談する人がいない」は，市民，高齢者，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病，障害児保護者で2～8%台となっているが，精神障害は10.2%と多くなっている。

図表 困ったときの身近な相談相手（人・機関）（%）

		1位	特定項目
市民 (N=815)		同居の家族 (65.8)	身近に相談できる人や機関はない (4.8)
高齢者 (N=1203)		同居の家族 (64.9)	身近に相談できる人や機関はない (4.8)
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる） (67.1)	相談する人がいない (8.0)
	身体障害（65歳以上） (N=237)	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる） (66.2)	相談する人がいない (4.2)
	知的障害 (N=182)	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる） (65.9)	相談する人がいない (2.2)
	精神障害 (N=177)	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる） (61.0)	相談する人がいない (10.2)
	難病 (N=172)	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる） (69.8)	相談する人がいない (4.7)
障害児保護者 (N=130)		家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる） (80.0)	相談する人がいない (6.2)

②医療機関（歯科を含む）の受診で困ること

【障害者（18歳以上），障害児保護者】

あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病，障害児保護者ともに「特にない」が最も多くなっている。
- 困っていることは、身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），精神障害，難病，障害児保護者ともに「医療費や交通費の負担が大きい」ことを挙げている。知的障害では「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」ことを挙げている。

図表 医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（％）

		かかりつけ医（日常的に健康について相談できず医療機関へ相談できない）	かかりつけ歯科医（歯の健康や治療について相談できる歯科医）がない	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	近隣の専門的な治療やリハビリを行う医療機関がない	障害を理由に診療や健診などを断られたことがある	通院するときに介助してくれる人がいない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にない	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）（N=213）	9.4	4.7	3.3	2.8	9.9	2.8	5.6	16.0	8.0	8.0	46.0	7.5
	身体障害（65歳以上）（N=237）	6.3	6.8	2.5	2.5	4.2	1.3	3.0	9.7	4.6	3.0	57.8	13.1
	知的障害（N=182）	9.9	9.9	7.1	5.5	5.5	2.2	3.8	9.9	13.7	6.6	51.6	13.2
	精神障害（N=177）	7.3	9.0	8.5	6.2	6.8	1.7	5.1	18.6	9.0	10.7	44.6	13.6
	難病（N=172）	5.2	5.8	0.6	2.3	4.1	0.6	1.7	20.3	2.3	4.7	55.2	11.6
障害児保護者（N=130）		6.9	10.8	3.1	4.6	15.4	7.7	5.4	16.2	8.5	11.5	40.8	6.9

③財産の管理や身の回りの手続きなどが必要となった場合の支援者

【市民，高齢者】

ご自身の判断能力が低下し，財産の管理や身の回りの手続きなどに支援が必要となった場合，誰に支援をしてほしいですか。（2 つまで○）

- 財産の管理や身の回りの手続きなどが必要となった場合の支援者は，市民，高齢者ともに「家族・親族」が最も多く，8 割を超える。
- それに続く「成年後見人（弁護士・司法書士・社会福祉士など）」は1 割台から2 割台となっている。

図表_財産の管理や身の回りの手続きなどが必要となった場合の支援者（％）

		家族・親族	友人・知人	成年後見人（弁護士・司法書士・社会福祉士など）	市民後見人	その他	わからない	無回答
市民	(N=815)	86.7	8.3	22.9	2.1	1.0	7.2	2.0
高齢者	(N=1203)	89.4	4.0	14.6	2.4	0.5	6.1	3.6

5 暮らしやすさ、ともに生きる社会への意識

①市内のバリアフリーの状況

【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

市内のバリアフリーについて、どのように感じていますか。（それぞれ1つに○）

『充実している』の割合

- 市内のバリアフリー化の状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合をみると、市民，高齢者，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病，障害児保護者ともに『公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター』が最も多くなっている。

図表 市内のバリアフリー化の状況（％）

<『充実している』の割合>

		1位	2位
市民	(N=815)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（43.4）	車いすの方や乳幼児を連れた方など，誰もが使いやすいトイレ（33.7）
高齢者	(N=1203)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（37.7）	車いすの方や乳幼児を連れた方など，誰もが使いやすいトイレ（23.9）
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）	(N=213)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（40.8）
	身体障害（65歳以上）	(N=237)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（37.6）
	知的障害	(N=182)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（39.5）
	精神障害	(N=177)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（37.9）
	難病	(N=172)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（34.8）
障害児保護者	(N=130)	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（50.7）	車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ（41.6）

『充実していない』の割合

- 市内のバリアフリー化の状況について、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合をみると、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに『歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路』が最も多くなっている。

図表_市内のバリアフリー化の状況（％）

<『充実していない』の割合>

		1位	2位
市民 (N=815)		歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路（69.7）	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（52.8）
高齢者 (N=1203)		歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路（63.2）	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（46.3）
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（61.5）	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（46.5）
	身体障害（65歳以上） (N=237)	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（56.9）	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（40.9）
	知的障害 (N=182)	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（46.7）	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（34.6）
	精神障害 (N=177)	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（49.1）	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（36.7）
	難病 (N=172)	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（54.0）	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（44.8）
障害児保護者 (N=130)		歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（57.6）	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（43.1）

②心のバリアフリーの普及に必要な取組

【市民，障害者（18歳以上），障害児保護者】

誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて，病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために，特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーの普及に必要な取組は，市民，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病，障害児保護者ともに「学校において，お互いを理解し，思いやる心を醸成するための教育」もしくは「学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多くなっている。

図表_心のバリアフリーの普及に必要な取組（％）

		1位	2位
市民	(N=815)	学校において，お互いを理解し，思いやる心を醸成するための教育（58.3）	わかりやすい，使いやすい情報の提供（52.4）
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）	(N=213)	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（52.6）
	身体障害（65歳以上）	(N=237)	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（40.1）
	知的障害	(N=182)	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（44.0）
	精神障害	(N=177)	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（49.7）
	難病	(N=172)	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（48.3）
障害児保護者	(N=130)	学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（71.5）	わかりやすい情報発信（46.2）

6 デジタルの活用

①講座やイベントのオンライン開催への意向

【市民，障害者（18歳以上），障害児保護者】

市や社会福祉協議会の講座やイベントがオンライン開催（インターネットを介して参加する方法）されたら，参加しやすくなりますか。（1 つに○）

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催について，市民，身体障害（64 歳以下），精神障害，難病で「参加しやすくなる」が2 割を超えており，障害児保護者は約 5 割と多くなっている。身体障害（65 歳以上）と知的障害は 1 割台にとどまる。

図表 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催への意向（％）

		参加しやすくなる	変わらない	参加しづらくなる	無回答
市民 (N=815)		32.1	57.7	7.0	3.2
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	28.6	57.3	6.1	8.0
	身体障害（65歳以上） (N=237)	14.3	52.7	11.8	21.1
	知的障害 (N=182)	11.5	57.1	14.8	16.5
	精神障害 (N=177)	30.5	52.5	6.8	10.2
	難病 (N=172)	27.3	53.5	3.5	15.7
障害児保護者 (N=130)		49.2	46.9	3.1	0.8

第2章 市民（18歳以上）調査結果

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

- 回答者の性別は、「男性（43.3%）」、「女性（53.4%）」、「回答しない（1.7%）」である。
- 令和元年度の調査結果と比較すると、選択肢の数が異なるものの、「男性」と「女性」の差は、令和元年度の16.9ポイントから、今回は10.1ポイントに縮まっている。
- 年齢は、「50歳代（20.5%）」が最も多く、「40歳代（16.9%）」、「60歳代（16.7%）」が続いている。
- 居住地域（福祉圏域）は、「第三・石原・飛田給小学校地域（14.7%）」が最も多く、「第一・富士見台・多摩川小学校地域（14.4%）」、「第二・八雲台・国領小学校地域（13.7%）」が続いている。
- 居住年数は、「30年以上（33.5%）」が最も多く、「10年以上20年未満（20.5%）」、「20年以上30年未満（19.4%）」が続いている。また、「1年未満」は3.2%である。
- 家族構成は、全体をみると、「夫婦と子ども（二世帯同居）（38.8%）」が最も多く、「夫婦のみ（25.2%）」、「ひとり暮らし（17.2%）」が続いている。

2 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

＊手助けしてほしいこと、手助けできること

問 9 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

① 手助けしてほしいこと

- 手助けを「してほしい」の割合は、『災害時避難の手助け（70.2%）』が最も多く、『具合がよくない時に病院などに連絡する（51.9%）』，『安否確認の声かけ（51.0%）』が続いている。

図表_市民／手助けしてほしいこと（全体）

N=815 設問毎の単数回答（%）

	してほしい	してほしくない	無回答
ア 安否確認の声かけ	51.0	40.9	8.1
イ ちょっとした買い物やごみ出し	13.6	76.8	9.6
ウ 食事や掃除・洗濯の手伝い	8.5	82.1	9.4
エ 通院の送迎や外出の手助け	15.8	75.3	8.8
オ 子どもの預かり	16.0	68.8	15.2
カ 話し相手や相談相手	28.1	62.0	9.9
キ 災害時避難の手助け	70.2	22.5	7.4
ク 具合がよくない時に病院などに連絡する	51.9	40.1	8.0

② 手助けできること

- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『安否確認の声かけ（76.9%）』と『災害時避難の手助け（76.9%）』が最も多く、『具合がよくない時に病院などに連絡する（72.1%）』が続いている。

図表_市民／手助けできること（全体）

N=815 設問毎の単数回答（%）

	できる・ してもいい	できない・ しない	無回答
ア 安否確認の声かけ	76.9	16.4	6.6
イ ちょっとした買い物やごみ出し	44.2	47.9	8.0
ウ 食事や掃除・洗濯の手伝い	16.4	75.2	8.3
エ 通院の送迎や外出の手助け	26.4	65.0	8.6
オ 子どもの預かり	22.5	68.5	9.1
カ 話し相手や相談相手	48.7	43.3	8.0
キ 災害時避難の手助け	76.9	16.1	7.0
ク 具合がよくない時に病院などに連絡する	72.1	20.9	7.0

＊地域活動・ボランティア活動の取組状況，今後の取組意向

問 11 市内では多くの地域活動・ボランティア活動が行われています。①あなたは、次のような活動に取り組んでいますか、②今後、次のような活動に取り組みたいです。 (それぞれ1つに○)

① 地域活動・ボランティア活動の取組状況

- 地域活動・ボランティア活動の取組状況について、すべての取組で「取り組んでいない」が最も多くなっている。
- 「取り組んでいる」活動をみると、『趣味・習いごとなどの活動（19.9%）』が最も多く、『子育て世帯・青少年を支援する活動，子ども会やPTAの活動（11.5%）』，『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（10.1%）』が続いている。

図表_市民／地域活動・ボランティア活動の取組状況（全体）

N=815 設問毎の単数回答（%）

	取り組んでいる	取り組んでいない	無回答
ア 子育て世帯・青少年を支援する活動，子ども会やPTAの活動	11.5	82.5	6.0
イ 高齢者を支援する活動	3.9	90.1	6.0
ウ 障害のある人を支援する活動	3.4	90.7	5.9
エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動	8.6	85.2	6.3
オ 交通安全や犯罪防止など，地域の安全を守る活動	6.1	87.6	6.3
カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	6.1	87.9	6.0
キ 地域の環境美化，環境保全・自然保護などの活動	6.6	86.7	6.6
ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	10.1	84.3	5.6
ケ 趣味・習いごとなどの活動	19.9	75.2	4.9

② 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向

- 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向について、「取り組みたいです，興味がある」の割合は、『趣味・習いごとなどの活動（38.9%）』が最も多く、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（35.6%）』，『地域の環境美化，環境保全・自然保護などの活動（31.0%）』が続いている。

図表_市民／地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向（全体）

N=815 設問毎の単数回答（%）

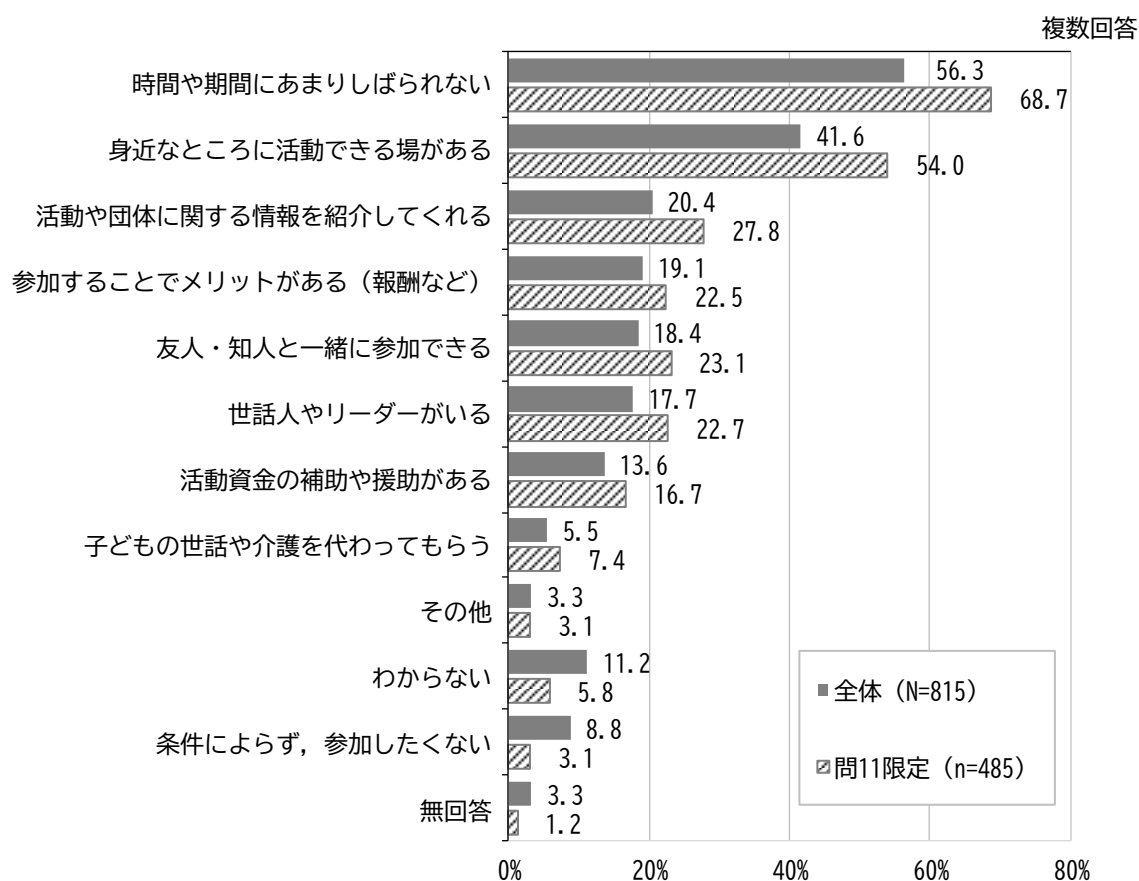
	取り組みたいです，興味がある	取り組まない，興味がない	わからない	無回答
ア 子育て世帯・青少年を支援する活動，子ども会やPTAの活動	15.1	41.0	35.0	9.0
イ 高齢者を支援する活動	21.2	30.7	40.4	7.7
ウ 障害のある人を支援する活動	19.8	32.0	40.0	8.2
エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動	24.0	35.2	32.4	8.3
オ 交通安全や犯罪防止など，地域の安全を守る活動	22.5	31.8	36.9	8.8
カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	35.6	22.2	33.7	8.5
キ 地域の環境美化，環境保全・自然保護などの活動	31.0	25.5	34.6	8.8
ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	13.3	38.7	39.4	8.7
ケ 趣味・習いごとなどの活動	38.9	24.2	28.2	8.7

＊地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件

問 13 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。（いくつでも○）

- 地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない(56.3%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場がある(41.6%)」,「活動や団体に関する情報を紹介してくれる(20.4%)」が続いている。
- 問 11①の活動にひとつでも「取り組んでいない」人,かつ,問 11②の活動にひとつでも「興味あり」と回答した人に限定してみると,「時間や期間にあまりしばられない(68.7%)」,「身近なところに活動できる場がある(54.0%)」が,全体と比べて,それぞれ 12.4 ポイント高い数値となっている。

図表_市民／地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件（全体, 問 11①②限定）

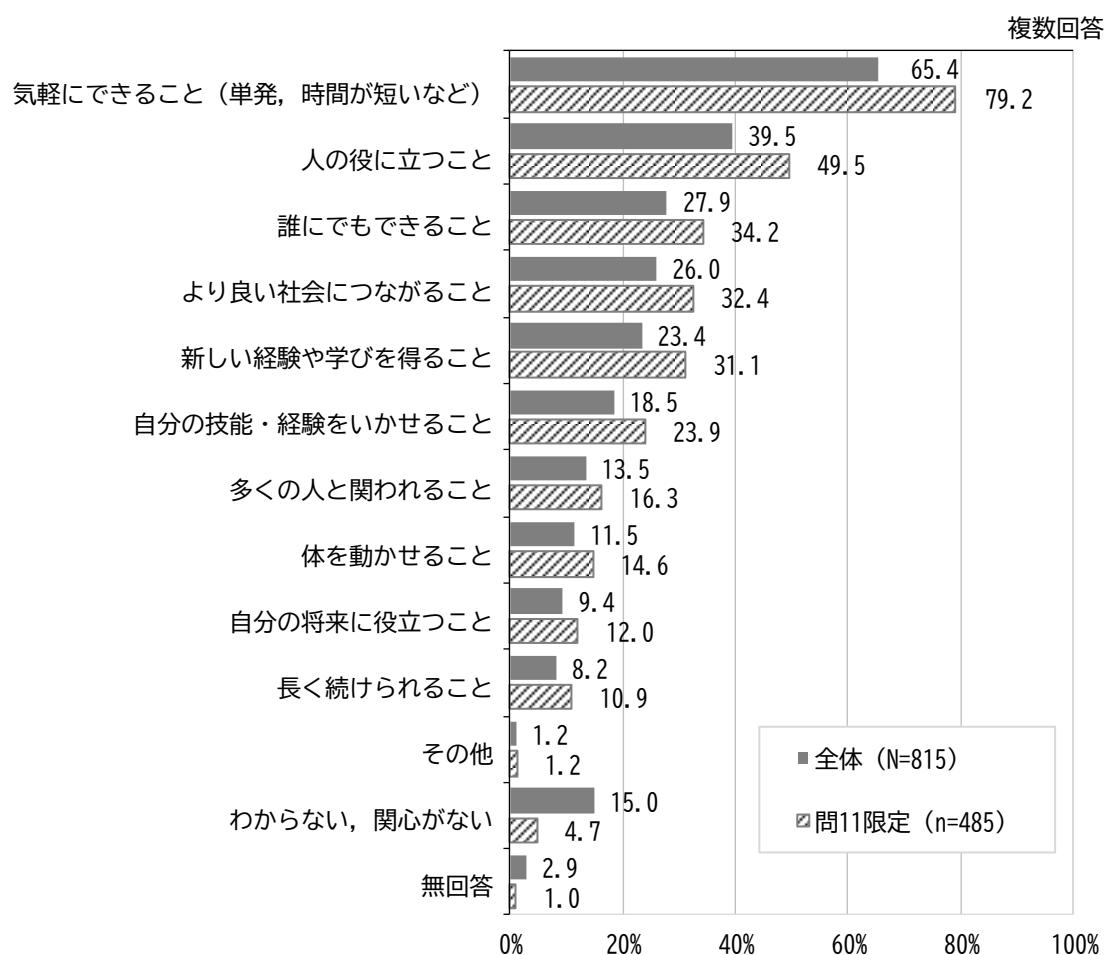


＊地域活動・ボランティア活動の参加で重視すること（動機）

問 15 あなたが地域活動・ボランティア活動に参加する場合、どのような点を重視しますか。（いくつでも○）

- 地域活動・ボランティア活動に参加する場合に重視する点は、「気軽にできること（単発、時間が短いなど）（65.4%）」が最も多く、「人の役に立つこと（39.5%）」、「誰にでもできること（27.9%）」が続いている。
- 問 11①の活動にひとつでも「取り組んでいない」人、かつ、問 11②の活動にひとつでも「興味あり」と回答した人に限定してみると、全体と比べて「気軽にできること（単発、時間が短いなど）（79.2%）」が 13.8 ポイント、「人の役に立つこと（49.5%）」が 10.0 ポイント高い数値となっている。

図表 市民／地域活動・ボランティア活動に参加する場合に重視する点（全体、問 11①②限定）



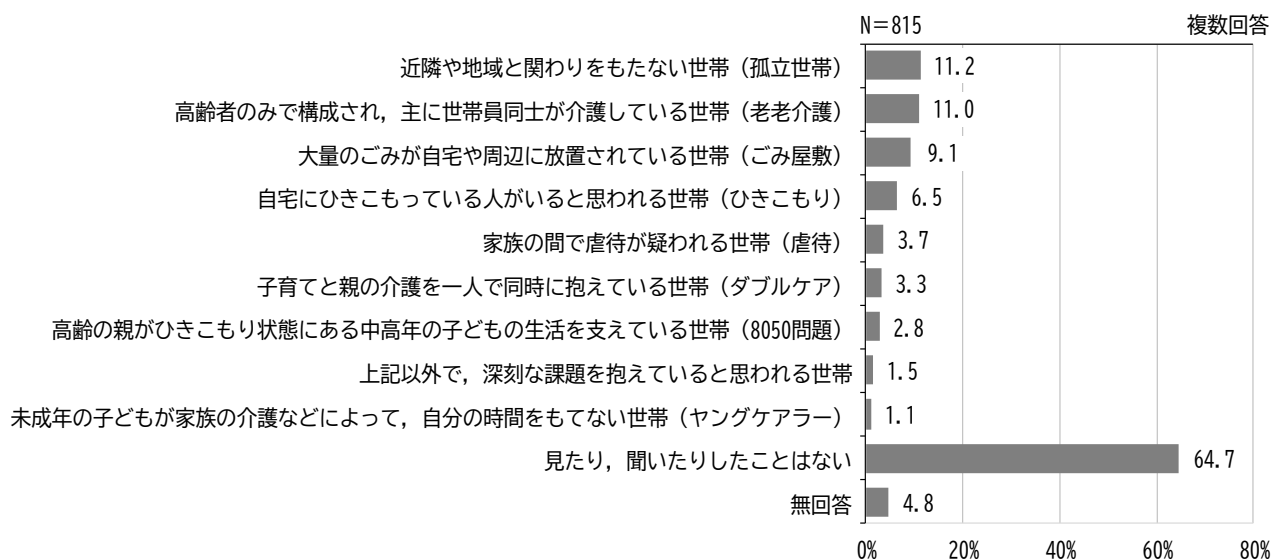
3 暮らしのことについておたずねします

*複合的な課題を抱えた世帯の認知状況

問 19 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。
(いくつでも○)

- 複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況は、「見たり、聞いたりしたことはない(64.7%)」が最も多く、「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)(11.2%)」、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)(11.0%)」、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)(11.0%)」が続いている。

図表_市民/複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況(全体)



*地域の中での不安や課題

問 23 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- 地域の暮らしの中での不安や課題は、「老後の生活のこと(32.0%)」が最も多く、「災害時のこと(30.1%)」、「特にない(25.6%)」、「健康のこと(22.9%)」が続いている。

図表_市民/地域の暮らしの中での不安や課題(全体)

N=815 複数回答(%)

老後の生活のこと	災害時のこと	健康のこと	経済的なこと	住まいや住宅のこと	子育て、子どもの教育	防犯、地域の安全のこと	介護のこと	仕事のこと	気軽に相談できる人(機関)が少ないこと	近所付き合い、友だち	その他	特にない	無回答
32.0	30.1	22.9	19.4	14.5	14.4	14.1	13.5	13.1	6.1	4.9	1.1	25.6	6.5

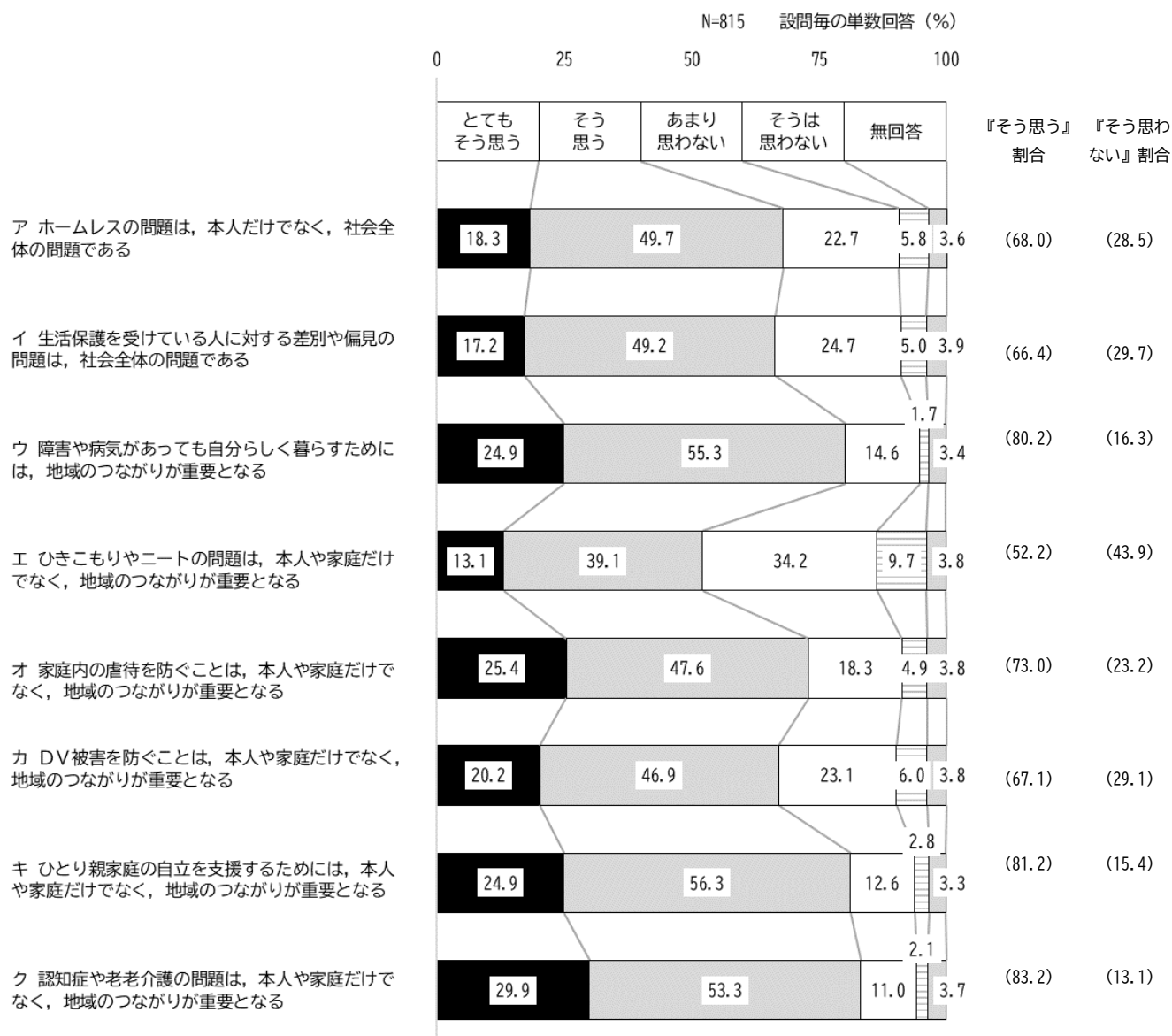
4 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

＊地域のつながりに対する考え方

問 30 地域のつながりに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。（それぞれ1つに○）

- 地域のつながりに対する考え方について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、『認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる（83.2%）』が最も多く、『ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる（81.2%）』，『障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる（80.2%）』と続いている。
- 一方、「あまり思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、『ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる（43.9%）』が最も多くなっている。

図表_市民／地域のつながりに対する考え方（全体）

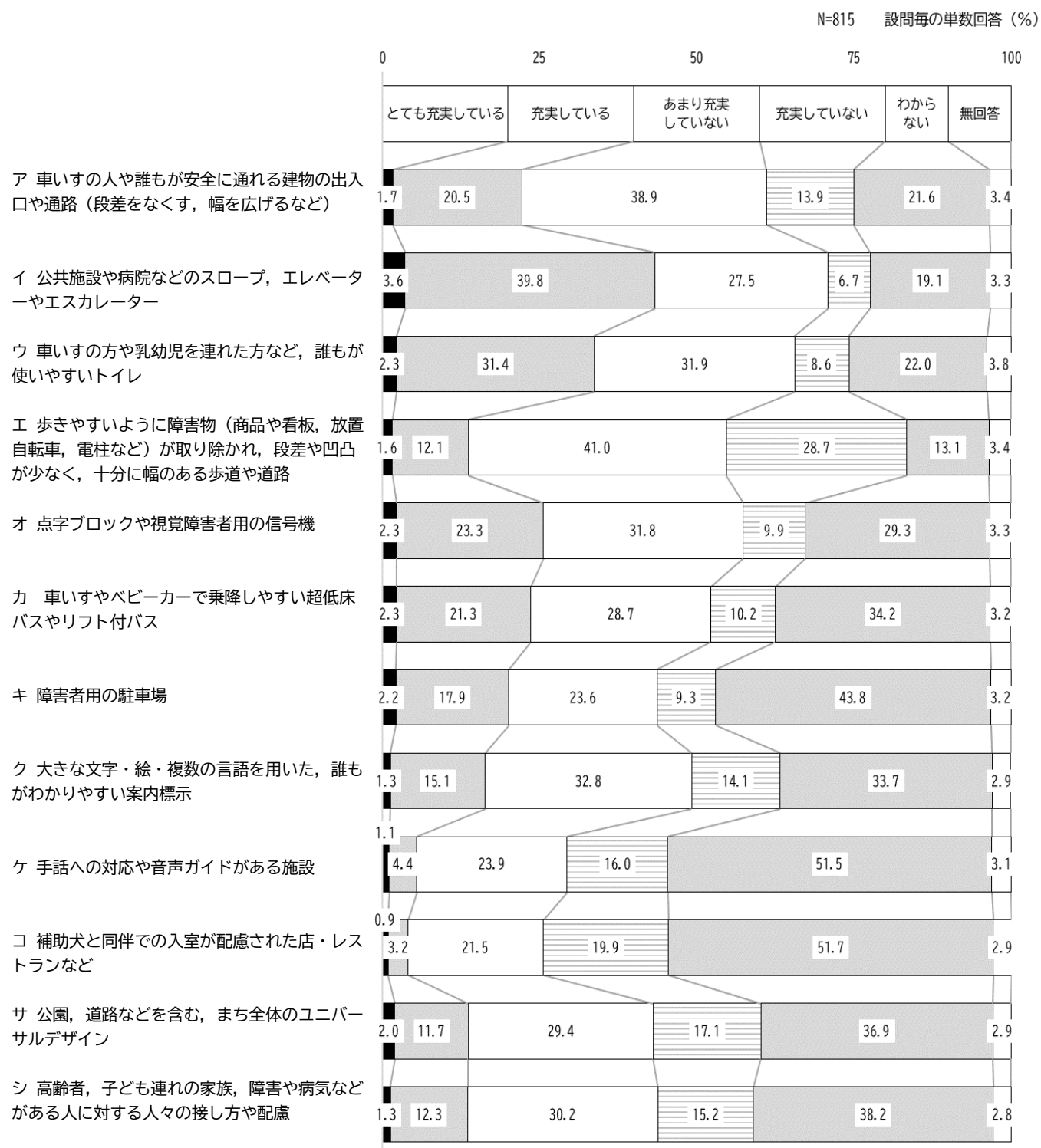


*市内のバリアフリー化の状況

問 31 市内のバリアフリーについて、どのように感じていますか。(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー化の状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、『公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（43.4%）』が最も多く、『車いすの方や乳幼児を連れた方など、誰もが使いやすいトイレ（33.7%）』が続いている。

図表_市民／市内のバリアフリー化の状況（全体）

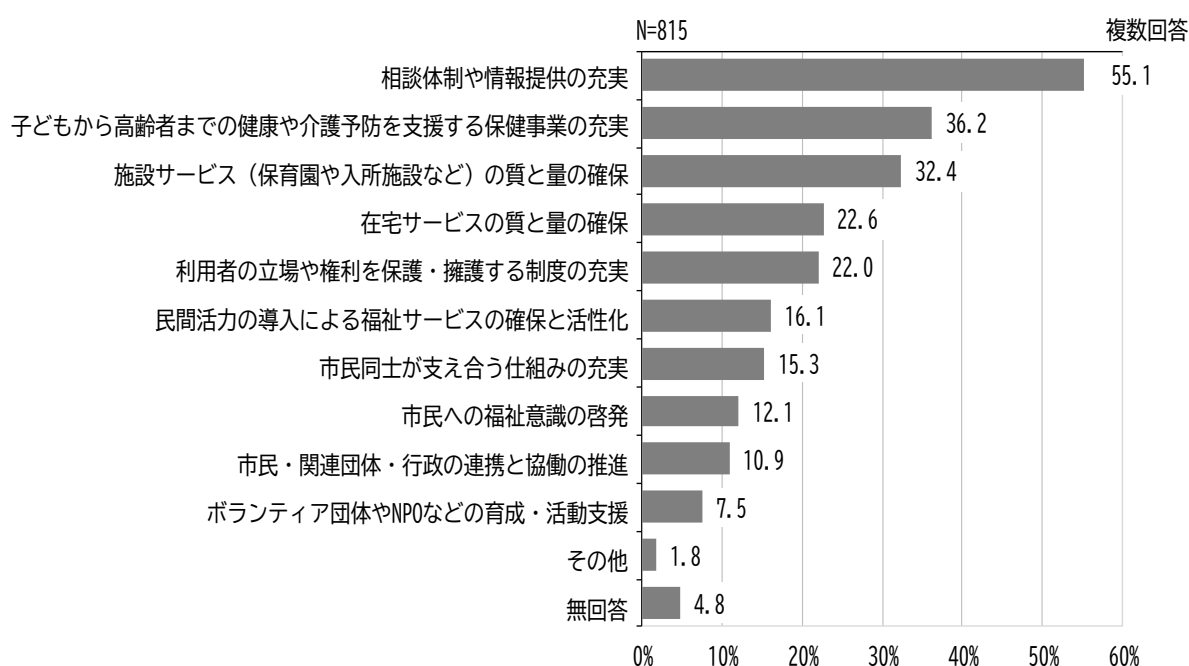


＊今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）

問 33 調布市の保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（3 つまで○）

- 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「相談体制や情報提供の充実（55.1%）」が最も多く、「子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実（36.2%）」，「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保（32.4%）」が続いている。

図表_市民／市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組（全体）



第3章 高齢者（65歳以上）調査結果

【調査名】高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

- 性別は、「男性（41.6%）」，「女性（55.4%）」，「回答しない（0.4%）」である。
- 年齢は，「70～74 歳（23.2%）」が最も多く，「65～69 歳（21.0%）」が続いている。
- 居住地域（福祉圏域）は，「第三・石原・飛田給小学校地域（15.1%）」が最も多く，「第二・八雲台・国領小学校地域（14.5%）」と「第一・富士見台・多摩川小学校地域（14.5%）」が続いている。
- 居住年数は，「30 年以上（62.8%）」が最も多く，「20 年以上 30 年未満（14.7%）」，「10 年以上 20 年未満（11.1%）」が続いている。また，「1 年未満」は 0.8%である。
- 住居形態は，「自宅（持ち家）で生活している（73.8%）」が最も多く，「自宅（賃貸）で生活している（20.9%）」が続いている。
- 同居家族は，「夫婦のみ（配偶者は 65 歳以上）（40.8%）」が最も多く，「上記（1～4）以外（29.4%）」，「ひとり暮らし（21.7%）」が続いている。
- 介護の状況は，「介護を受けていない（87.4%）」が最も多く，「介護保険制度を利用して介護を受けている（7.6%）」，「家族や親族から介護を受けている（5.2%）」，「その他の人から介護を受けている（0.7%）」となっている。

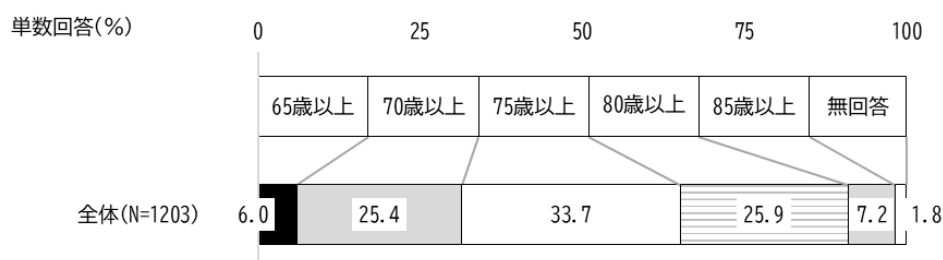
2 健康増進，権利擁護の取組についておたずねします

＊「高齢者」を意識する年齢

問 24 「高齢者」と意識する年齢は，何歳からですか。あなたの意識にもっとも近いものをお答えください。（1 つに○）

- 「高齢者」を意識する年齢は，「75 歳以上（33.7%）」が最も多く，「80 歳以上（25.9%）」，「70 歳以上（25.4%）」が続いている。

図表_高齢者／「高齢者」と意識する年齢（全体）



＊認知症予防，フレイル予防の取組状況

問 25 あなたは，健やかに暮らすために，次のことに取り組んでいますか。（それぞれ1つに○）

- 健やかに暮らすための取組について，『認知症予防』は，「取り組んでいないが，今後は取り組む（38.0%）」が最も多く，「今，取り組んでいる（28.3%）」が続いている。
- 『フレイル予防』は，「取り組んでいないが，今後は取り組む（31.4%）」が最も多く，「今，取り組んでいる（27.8%）」が続いている。

図表_高齢者／健やかに暮らすための取組（全体）

N=1203 設問毎の単数回答（%）

	今，取り組んでいる	取り組んでいないが，今後は取り組む	取り組んでいないし，今後も取り組まない	わからない	無回答
ア 認知症予防	28.3	38.0	7.1	18.9	7.7
イ フレイル予防	27.8	31.4	4.5	23.4	12.9

3 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

＊高齢者の生活を守る取組や相談窓口等の認知度

問 35 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などがあります。下記のことをご存知ですか。（それぞれ1つに○）

- 調布市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知度は，『地域包括支援センター（56.0%）』が最も多く，『調布市消費生活相談室（40.7%）』，『見守りネットワーク（みまもっと）（35.1%）』が続いている。

図表_高齢者／市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知状況（全体）

N=1203 設問毎の単数回答（%）

	知っている	知らない	無回答
ア 見守りネットワーク（みまもっと）	35.1	56.4	8.6
イ 高齢者虐待防止法	23.9	66.4	9.7
ウ 調布市消費生活相談室	40.7	49.5	9.7
エ 地域包括支援センター	56.0	35.7	8.3
オ 「くらしの案内～シルバー編～」	22.3	68.0	9.7
カ 調布ライフサポート	10.2	79.8	10.0
キ 住まいぬくもり相談室	6.6	82.8	10.6

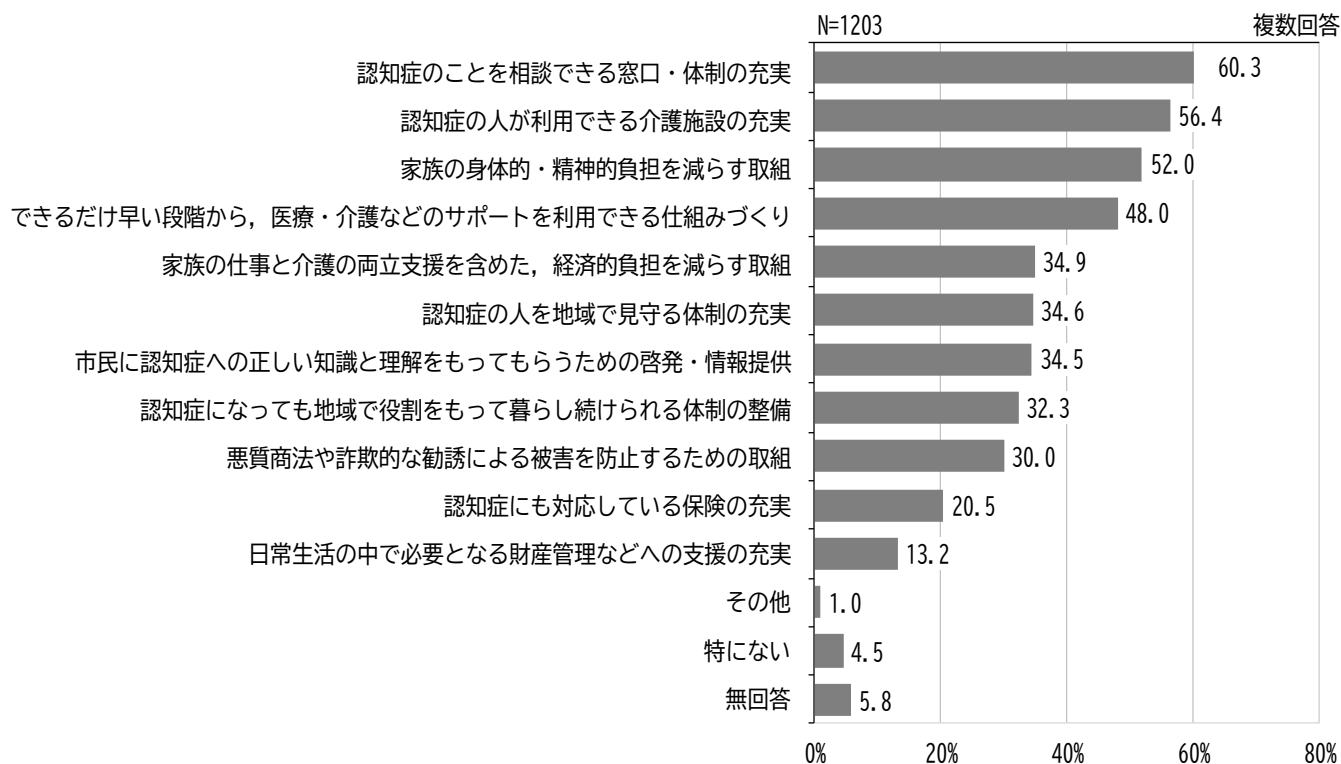
4 健康増進，権利擁護の取組についておたずねします

＊認知症対策の取組

問 27 認知症の人やその家族を支えるため，どのような取組に力を入れる必要があると思いますか。（いくつでも○）

- 認知症の人やその家族を支える重点施策は，「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実（60.3%）」が最も多く，「認知症の人が利用できる介護施設の充実（56.4%）」，「家族の身体的・精神的負担を減らす取組（52.0%）」が続いている。

図表_高齢者／認知症の人やその家族を支える重点施策（全体）



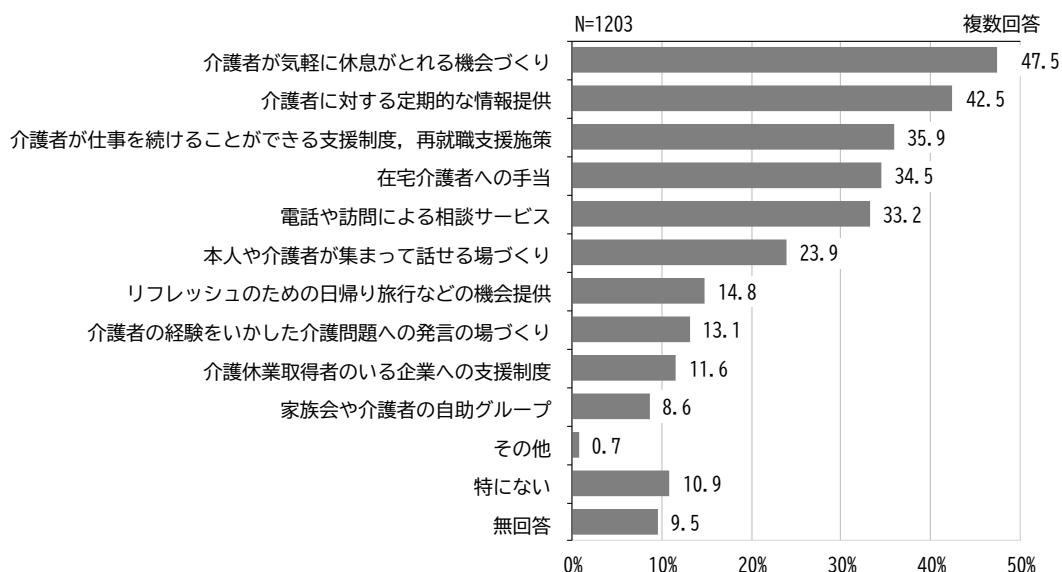
5 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

*介護者支援策への意向

問 38 介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。（いくつでも○）

- 介護者への支援策は、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり（47.5%）」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供（42.5%）」、「介護者が仕事を続けることができる支援制度、再就職支援施策（35.9%）」が続いている。

図表_高齢者／介護者への支援策（全体）



6 暮らしのことについておたずねします

*サードプレイス（居場所）の必要性、希望

問 33 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごす場合、どのような場所を望みますか。（いくつでも○）

- 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごしたい場所は、「飲食店（45.6%）」が最も多く、「公園・自然（38.5%）」、「友人・知人宅（30.1%）」が続いている。

図表_高齢者／自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごしたい場所（全体）

N=1203 複数回答 (%)

飲食店	公園・自然	友人・知人宅	文化施設 (図書館・資料館など)	運動施設	集会施設 (公民館・自治会館・交流スペースなど)	商業施設 (飲食店除く)	福祉施設	インターネット・SNS	その他	必要ない	無回答
45.6	38.5	30.1	18.8	18.6	15.2	10.4	7.1	6.2	2.7	6.1	9.1

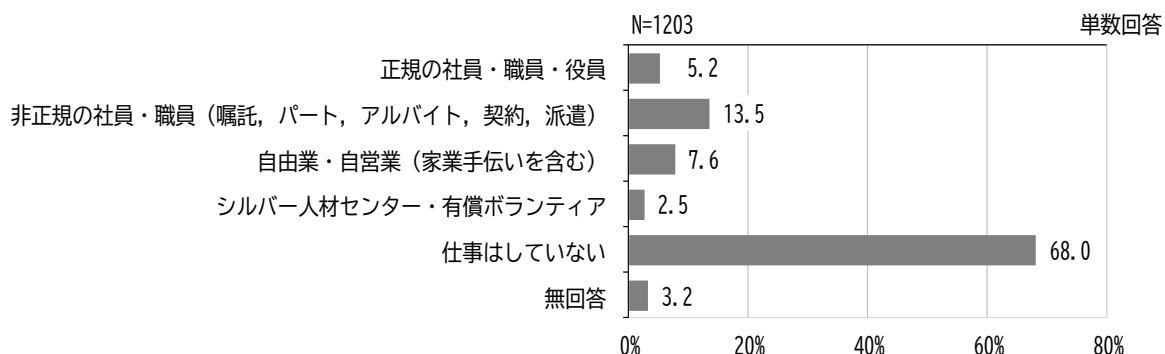
7 就労についておたずねします

*就労状況

問 16 現在の職業を教えてください。(1 つに○)

- 現在の就労状況は、「仕事はしていない(68.0%)」が最も多く、「非正規の社員・職員(嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)(13.5%)」, 「自由業・自営業(家業手伝いを含む)(7.6%)」が続いている。

図表_高齢者/就労状況(全体)



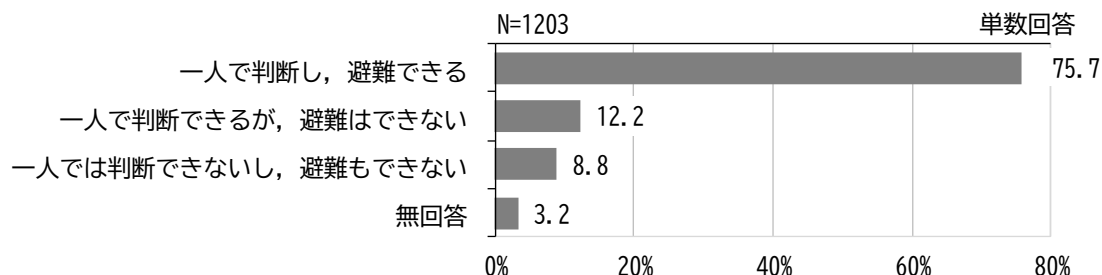
8 災害時の対策についておたずねします

*避難が一人でできるか

問 19 災害や火災などの緊急時に一人で避難することができますか。(1 つに○)

- 災害時の避難が一人でできるかは、「一人で判断し, 避難できる(75.7%)」, 「一人で判断できるが, 避難はできない(12.2%)」, 「一人では判断できないし, 避難もできない(8.8%)」である。

図表_高齢者/図表 緊急時に一人で避難できるか(全体)



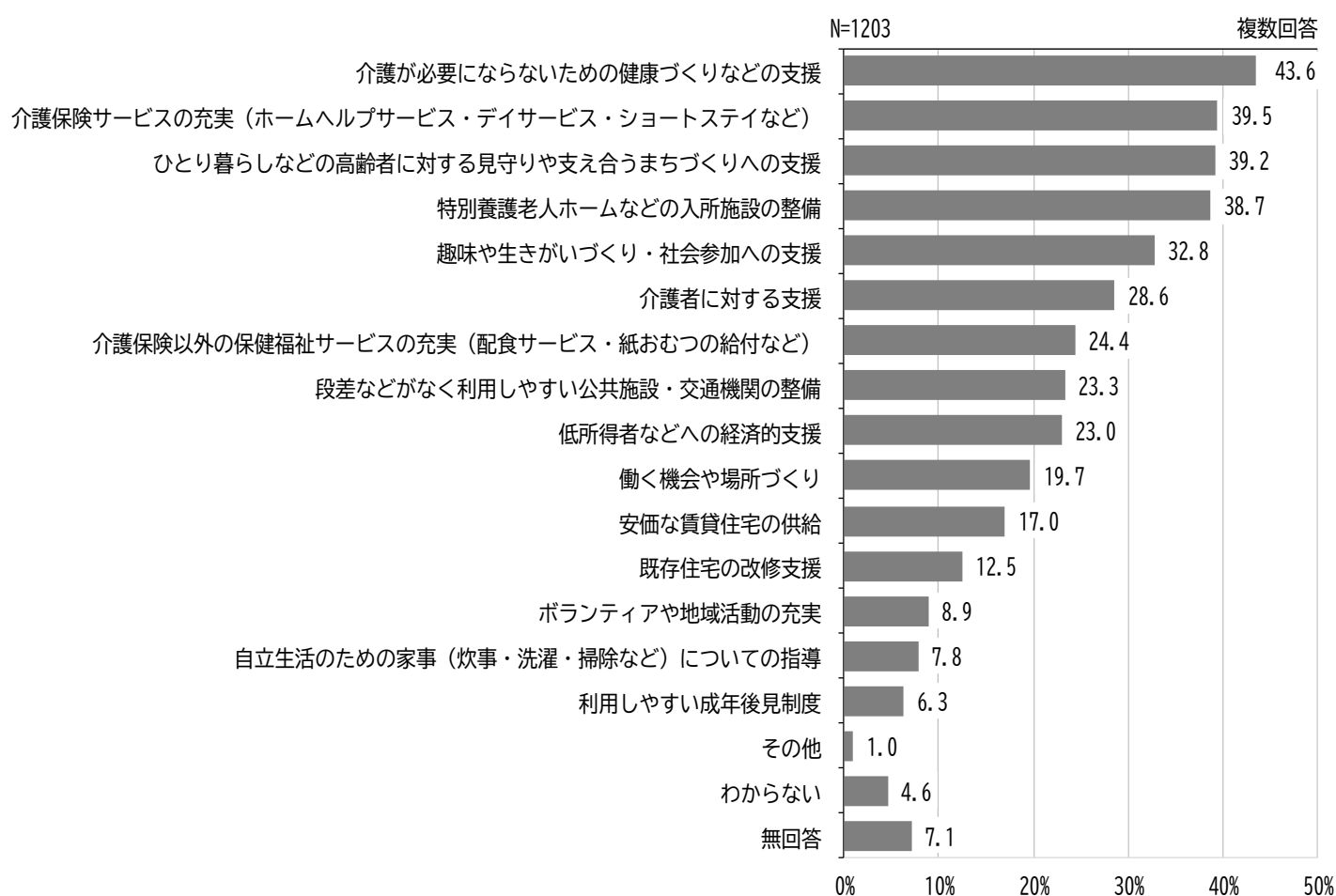
9 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

＊今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）

問 37 調布市の高齢者保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（5 つまで○）

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援（43.6%）」が最も多く、「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）（39.5%）」，「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援（39.2%）」が続いている。

図表_高齢者／市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組（全体）



第4章 障害者（18歳以上）調査結果

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

- 回答していただいた方は、身体障害（64歳以下）は「本人（73.7%）」，身体障害（65歳以上）は「本人（71.7%）」，精神障害は「本人（81.4%）」，難病は「本人（87.8%）」が最も多くなっている。
- 知的障害は「家族などが代筆（52.2%）」が最も多くなっている。
- 本人の性別は，身体障害（64歳以下）は「男性（53.1%）」，「女性（44.1%）」である。
- 身体障害（65歳以上）は「男性（48.1%）」，「女性（49.4%）」である。
- 知的障害は「男性（65.9%）」，「女性（27.5%）」である。
- 精神障害は「男性（49.2%）」，「女性（44.6%）」である。
- 難病は「男性（39.0%）」，「女性（59.3%）」である。
- 本人の年齢は，身体障害（64歳以下）は「50歳代（34.7%）」，身体障害（65歳以上）は「80歳以上（45.6%）」，知的障害は「20歳代（29.7%）」，精神障害は「50歳代（25.4%）」，難病は「70歳代（22.1%）」が最も多くなっている。
- 本人の居住地域の割合を障害等別にみると，身体障害（64歳以下）は「第二・八雲台・国領小学校地域（19.7%）」，身体障害（65歳以上）は「第一・富士見台・多摩川小学校地域（16.5%）」，知的障害は「第二・八雲台・国領小学校地域（16.5%）」，精神障害は「第二・八雲台・国領小学校地域（17.5%）」，難病は「第三・石原・飛田給小学校地域（16.3%）」が最も多くなっている。
- 本人の住居形態は，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「持ち家」が最も多くなっている。身体障害（64歳以下）と精神障害で「賃貸住宅（民間アパート，都営住宅などを含む）」が4割を超えている。

*同居の家族構成

問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

- 本人と同居している家族は、身体障害(64歳以下)は「配偶者(夫または妻)(35.2%)」、身体障害(65歳以上)は「配偶者(夫または妻)(55.3%)」、知的障害は「母親(70.3%)」、精神障害は「母親(33.9%)」、難病は「配偶者(夫または妻)(59.9%)」が最も多くなっている。
- 知的障害で「父親」と「母親」との同居割合が多くなっている。

図表_障害者/同居家族(全体)

複数回答(%)

	ひとり暮らし(グループホームなどを含む)	配偶者(夫または妻)	父親	母親	子ども(子どもの配偶者を含む)	孫(孫の配偶者を含む)	兄弟姉妹	祖父母	その他	無回答
身体障害(64歳以下)(N=213)	26.3	35.2	17.8	28.2	15.5	0.0	15.5	0.5	1.9	1.9
身体障害(65歳以上)(N=237)	21.5	55.3	0.4	0.8	31.2	2.5	0.8	0.4	3.4	2.5
知的障害(N=182)	14.3	2.2	61.5	70.3	2.7	0.0	27.5	4.4	1.6	4.9
精神障害(N=177)	32.8	24.3	19.8	33.9	15.8	0.0	10.7	0.0	2.8	1.7
難病(N=172)	18.6	59.9	4.7	11.6	32.6	0.6	4.7	0.0	1.2	4.1

2 相談支援についておたずねします

*医療機関の受診で困ること

問10 あなたは、医療機関(歯科を含む)の受診で困ることはありますか。(いくつでも○)

- 医療機関(歯科を含む)の受診で困ることは、身体障害(64歳以下)、身体障害(65歳以上)、知的障害、精神障害、難病ともに「特にない」が最も多くなっている。また、「特にない」を除くと、身体障害(64歳以下)、身体障害(65歳以上)、精神障害、難病で「医療費や交通費の負担が大きい」、知的障害で「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」がそれぞれ多くなっている。

図表_障害者/医療機関(歯科を含む)の受診で困ること(全体)

複数回答(%)

		かかりつけの医師(日常的に健康について相談できる医師)	かかりつけの歯科医師(歯科の健康や治療について相談できる歯科医師)	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	障害を理由に診療や健診などを断られたことがある	通院するときに介助してくれる人がいない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にない	無回答
身体障害(64歳以下)(N=213)		9.4	4.7	3.3	2.8	9.9	2.8	5.6	16.0	8.0	8.0	46.0	7.5
身体障害(65歳以上)(N=237)		6.3	6.8	2.5	2.5	4.2	1.3	3.0	9.7	4.6	3.0	57.8	13.1
知的障害(N=182)		9.9	9.9	7.1	5.5	5.5	2.2	3.8	9.9	13.7	6.6	51.6	13.2
精神障害(N=177)		7.3	9.0	8.5	6.2	6.8	1.7	5.1	18.6	9.0	10.7	44.6	13.6
難病(N=172)		5.2	5.8	0.6	2.3	4.1	0.6	1.7	20.3	2.3	4.7	55.2	11.6

＊今後の居住形態の意向

問 11 今後、どのように生活したいですか。（1 つに○）

- 希望する暮らし方について、知的障害で「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」、それ以外の障害等で「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。また、知的障害で「グループホームで生活する」が 2 割近くとなっている。

図表_障害者／希望する暮らし方（全体）

		単数回答(%)						
		親や兄弟などの家族と一緒に生活する	ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設で生活する	その他	わからない	無回答
身体障害（64歳以下）	(N=213)	28.2	45.5	4.7	2.8	2.8	14.6	1.4
身体障害（65歳以上）	(N=237)	24.9	43.0	0.4	6.8	2.5	15.6	6.8
知的障害	(N=182)	34.6	18.1	19.2	5.5	1.6	19.8	1.1
精神障害	(N=177)	23.2	48.6	1.1	1.1	6.8	15.3	4.0
難病	(N=172)	25.6	50.0	2.3	1.2	1.2	14.5	5.2

3 災害時の対策についておたずねします

＊避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況

問 14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1 つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、身体障害（64 歳以下）は「確認している（63.8%）」が多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「確認している（66.7%）」が多くなっている。
- 知的障害は「確認していない（50.5%）」が多くなっている。
- 精神障害は「確認していない（47.5%）」が多くなっている。
- 難病は「確認している（74.4%）」が多くなっている。

図表_障害者／避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況（全体）

		単数回答(%)		
		確認している	確認していない	無回答
身体障害（64歳以下）	(N=213)	63.8	33.3	2.8
身体障害（65歳以上）	(N=237)	66.7	30.4	3.0
知的障害	(N=182)	45.6	50.5	3.8
精神障害	(N=177)	45.8	47.5	6.8
難病	(N=172)	74.4	20.9	4.7

4 暮らしについておたずねします

*生活上の活動機会の有無

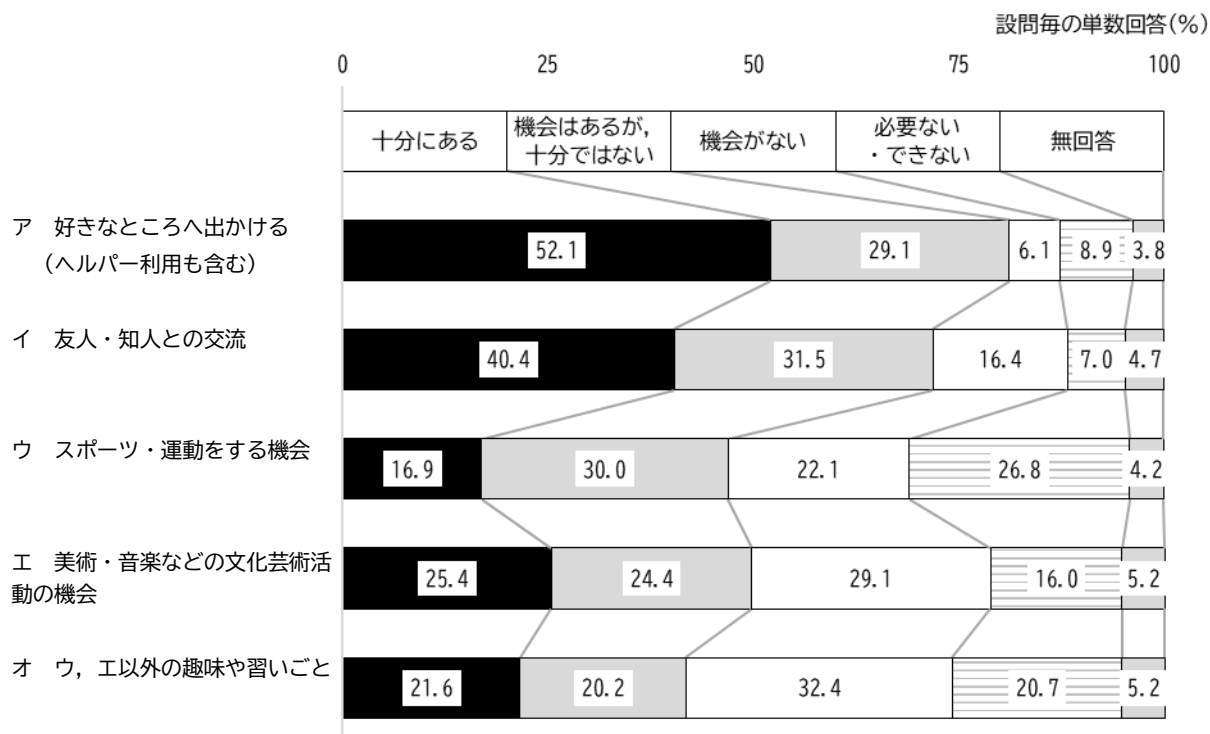
問 20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。（それぞれ1つに○）

- 生活の中の活動機会についてたずねた。
- 身体障害（64 歳以下）で「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（52.1%）』である。一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は『友人・知人との交流』『スポーツ・運動をする機会』※, 『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』※, 『ウ, エ以外の趣味や習いごと』となっている。
- 身体障害（65 歳以上）で「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（31.2%）』と『友人・知人との交流（31.2%）』であるものの、すべての活動で「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回っている。
- 知的障害で「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（44.5%）』である。一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は『友人・知人との交流』『スポーツ・運動をする機会』, 『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』, 『ウ, エ以外の趣味や習いごと』である。
- 精神障害で「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（39.5%）』であるものの、すべての活動で「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回っている。
- 難病で「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（55.2%）』である。一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、『スポーツ・運動をする機会』, 『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』, 『ウ, エ以外の趣味や習いごと』である。

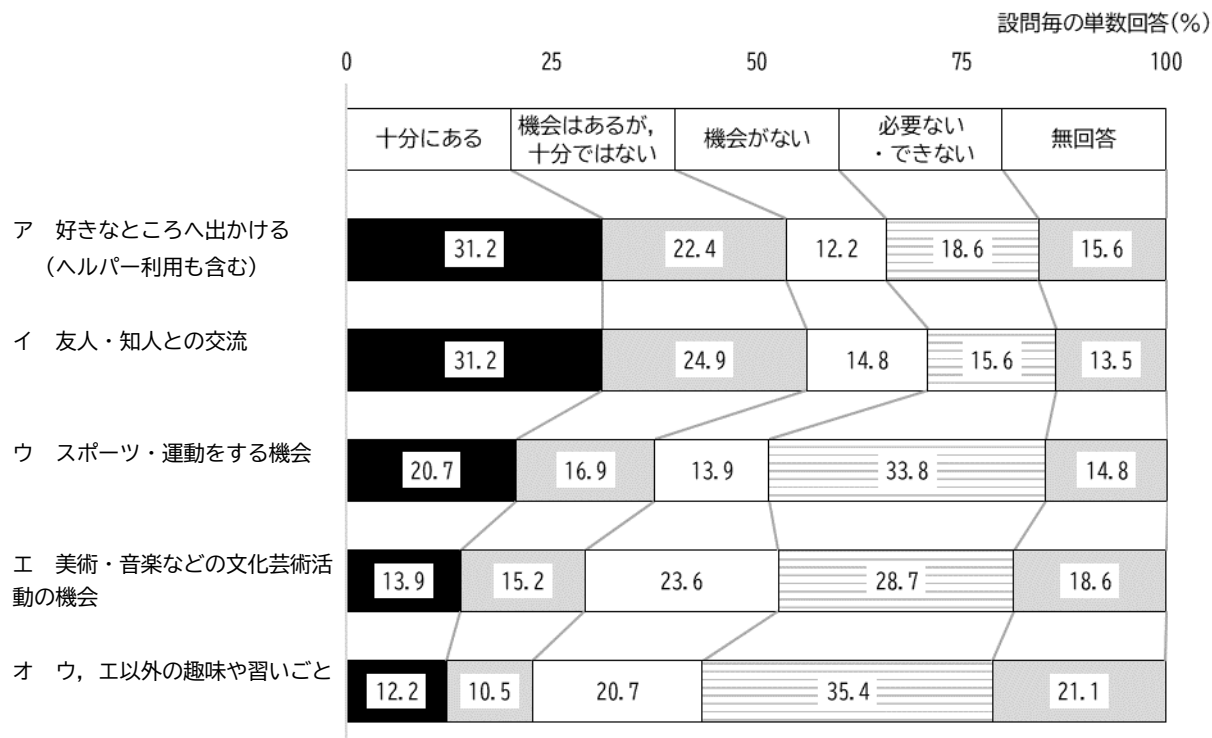
※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。

図表 障害者／生活の中の活動機会の有無（全体）

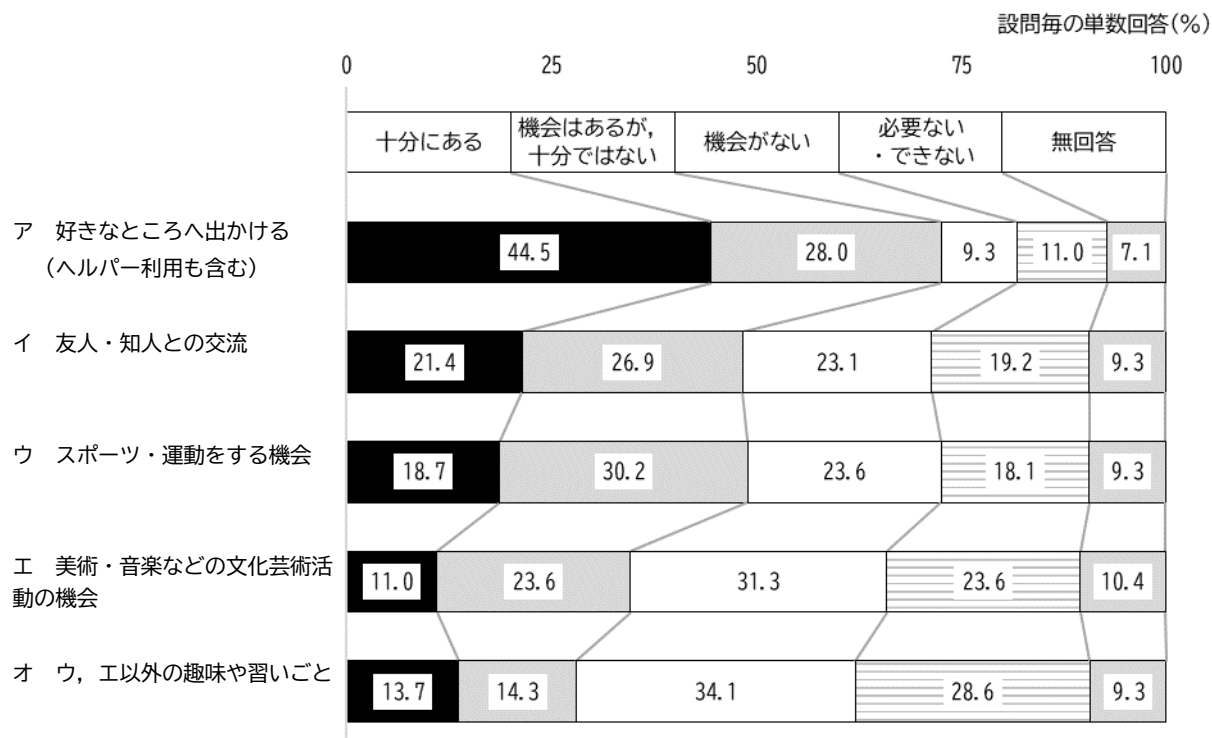
■身体障害（64 歳以下）（N=213）



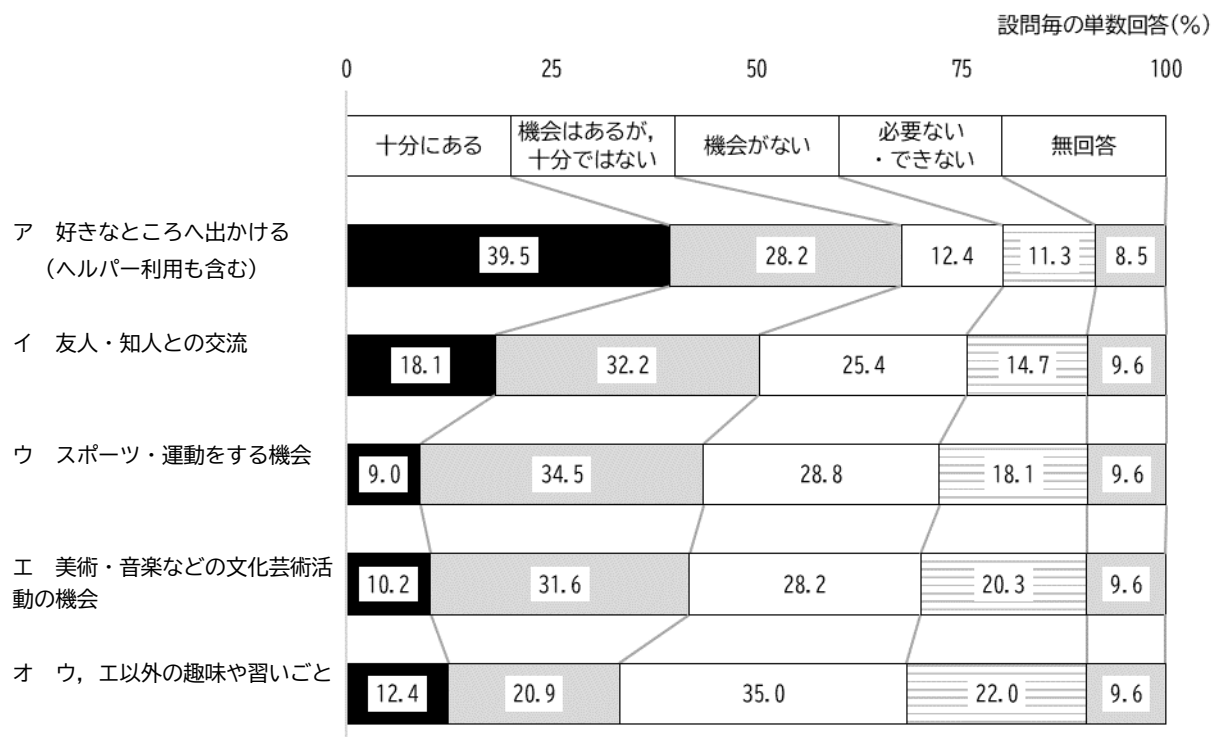
■身体障害（65 歳以上）（N=237）



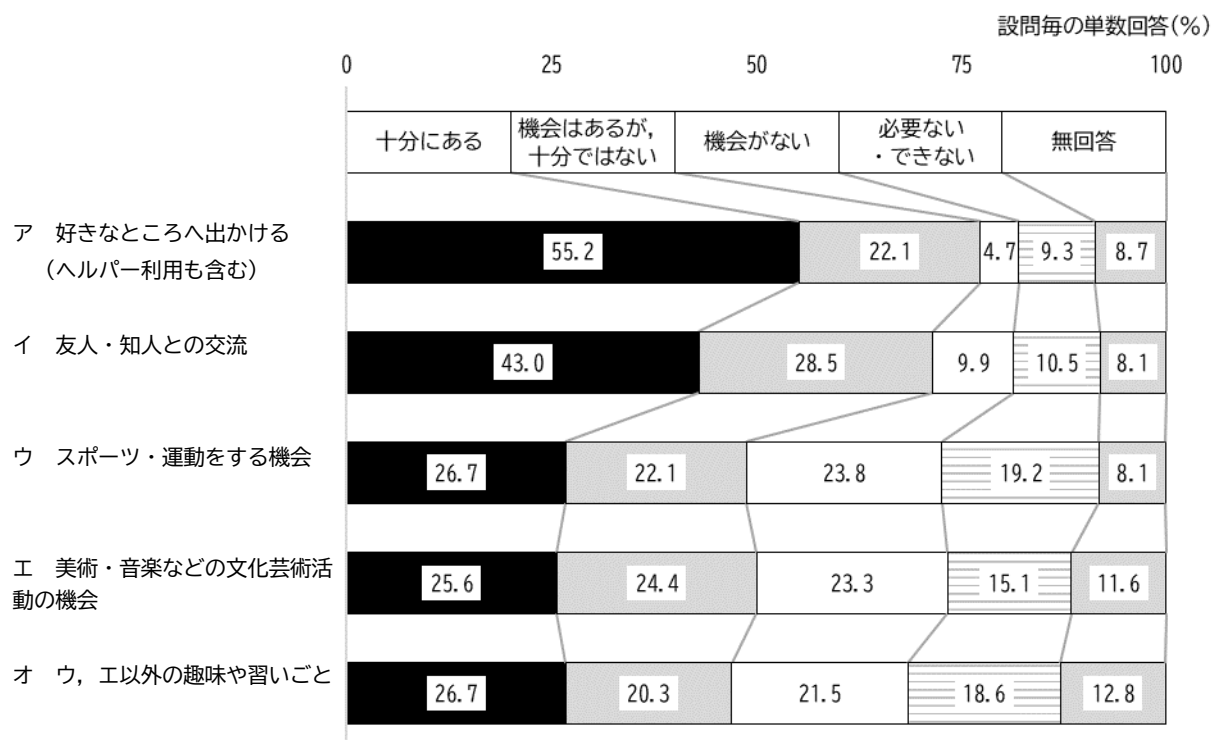
■知的障害(N=182)



■精神障害(N=177)



■難病(N=172)



＊スポーツ・運動をする頻度

問 21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

- スポーツ・運動をする頻度は、すべての属性で「ほとんどしない」が最も多くなっている。
- 「ほとんどしない」を除くと、身体障害(64歳以下)は「週に2回以上(23.5%)」、身体障害(65歳以上)は「週に2回以上(25.7%)」、知的障害は「週に1回程度(18.7%)」、精神障害は「週に2回以上(15.3%)」、難病は「週に2回以上(20.3%)」が多くなっている。

図表_障害者／スポーツ活動・運動をする頻度(全体)

単数回答(%)

	週に2回以上	週に1回程度	月に1, 2回程度	ほとんどしない	無回答
身体障害(64歳以下) (N=213)	23.5	11.7	8.9	53.5	2.3
身体障害(65歳以上) (N=237)	25.7	14.8	4.2	48.5	6.8
知的障害 (N=182)	15.9	18.7	10.4	48.9	6.0
精神障害 (N=177)	15.3	11.9	10.7	58.8	3.4
難病 (N=172)	20.3	18.0	12.2	47.1	2.3

*コロナ禍による暮らしへの影響

問 24 コロナ禍によってあなたの暮らしに影響はありましたか。（それぞれ1つに○）

- コロナ禍による暮らしへの影響についてたずねた。
- 身体障害（64 歳以下）で「増えた」が1 割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（17.8%）』，『趣味や好きなことをする時間（13.6%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（61.5%）』，『スポーツ・運動などで体を動かす時間（34.3%）』が多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上）で「増えた」が1 割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（12.2%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（58.2%）』，『人と電話やラインなどで話す頻度（30.8%）』が多くなっている。
- 知的障害で「増えた」が1 割を超える活動は『趣味や好きなことをする時間（12.6%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（41.8%）』，『仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（34.1%）』が多くなっている。
- 精神障害で「増えた」が1 割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（17.5%）』，『趣味や好きなことをする時間（14.1%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（55.9%）』，『仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（40.1%）』が多くなっている。
- 難病で「増えた」が1 割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（13.4%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（62.2%）』，『仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（31.4%）』，『スポーツ・運動などで体を動かす時間（31.4%）』が多くなっている。

図表_障害者／コロナ禍による暮らしへの影響（全体）

設問毎の単数回答(%)

■身体障害（64 歳以下）（N=213）

	増えた	変化なし	減った	事柄が該当しない・わからない	無回答
ア 人と直接会って話す機会の頻度	1.4	27.7	61.5	3.8	5.6
イ 人と電話やラインなどで話す頻度	17.8	46.5	19.7	11.3	4.7
ウ ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	1.4	13.1	1.4	75.6	8.5
エ 障害者施設（作業所など）への通所回数	0.5	13.6	7.5	71.4	7.0
オ ショートステイ（短期入所）の利用回数	0.5	6.6	3.8	79.8	9.4
カ 仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	0.5	24.9	32.9	35.2	6.6
キ 仕事（会社に行く）の日数や収入	2.3	37.1	24.9	30.5	5.2
ク スポーツ・運動などで体を動かす時間	4.2	33.3	34.3	23.0	5.2
ケ 趣味や好きなことをする時間	13.6	45.1	27.7	9.4	4.2

■身体障害（65 歳以上）(N=237)

	増えた	変化なし	減った	事柄が該当しない・わからない	無回答
ア 人と直接会って話す機会の頻度	1.3	22.4	58.2	7.2	11.0
イ 人と電話やラインなどで話す頻度	12.2	35.9	30.8	9.7	11.4
ウ ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	1.7	15.2	0.8	58.6	23.6
エ 障害者施設（作業所など）への通所回数	0.0	8.9	3.0	62.9	25.3
オ ショートステイ（短期入所）の利用回数	0.4	5.9	0.8	66.2	26.6
カ 仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	1.3	19.0	23.2	35.4	21.1
キ 仕事（会社に行く）の日数や収入	0.0	9.3	7.2	59.9	23.6
ク スポーツ・運動などで体を動かす時間	1.3	28.3	27.4	27.4	15.6
ケ 趣味や好きなことをする時間	3.8	35.0	27.0	19.0	15.2

■知的障害(N=182)

	増えた	変化なし	減った	事柄が該当しない・わからない	無回答
ア 人と直接会って話す機会の頻度	3.3	29.1	41.8	19.2	6.6
イ 人と電話やラインなどで話す頻度	9.3	37.9	12.6	29.7	10.4
ウ ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	0.0	12.1	6.0	69.8	12.1
エ 障害者施設（作業所など）への通所回数	3.3	36.8	16.5	34.1	9.3
オ ショートステイ（短期入所）の利用回数	2.7	15.4	8.8	62.1	11.0
カ 仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	4.4	25.3	34.1	26.9	9.3
キ 仕事（会社に行く）の日数や収入	5.5	46.2	19.2	17.6	11.5
ク スポーツ・運動などで体を動かす時間	5.5	31.3	33.0	22.0	8.2
ケ 趣味や好きなことをする時間	12.6	39.6	19.2	21.4	7.1

■精神障害(N=177)

	増えた	変化なし	減った	事柄が該当しない・わからない	無回答
ア 人と直接会って話す機会の頻度	4.5	23.2	55.9	7.3	9.0
イ 人と電話やラインなどで話す頻度	17.5	40.1	23.7	9.6	9.0
ウ ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	1.1	18.1	1.7	68.4	10.7
エ 障害者施設（作業所など）への通所回数	5.6	16.4	14.1	53.1	10.7
オ ショートステイ（短期入所）の利用回数	0.0	7.9	2.8	77.4	11.9
カ 仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	1.1	24.9	40.1	23.2	10.7
キ 仕事（会社に行く）の日数や収入	4.0	22.6	21.5	41.2	10.7
ク スポーツ・運動などで体を動かす時間	5.6	28.2	33.3	23.2	9.6
ケ 趣味や好きなことをする時間	14.1	39.5	25.4	11.3	9.6

■難病(N=172)

	増えた	変化なし	減った	事柄が該当しない・わからない	無回答
ア 人と直接会って話す機会の頻度	0.0	25.6	62.2	7.0	5.2
イ 人と電話やラインなどで話す頻度	13.4	52.9	22.1	6.4	5.2
ウ ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	1.7	8.7	0.0	75.0	14.5
エ 障害者施設（作業所など）への通所回数	0.0	7.0	0.0	77.3	15.7
オ ショートステイ（短期入所）の利用回数	0.6	5.2	0.0	77.9	16.3
カ 仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	0.6	20.9	31.4	35.5	11.6
キ 仕事（会社に行く）の日数や収入	0.6	32.0	14.0	40.1	13.4
ク スポーツ・運動などで体を動かす時間	6.4	34.3	31.4	19.2	8.7
ケ 趣味や好きなことをする時間	9.9	40.7	27.3	13.4	8.7

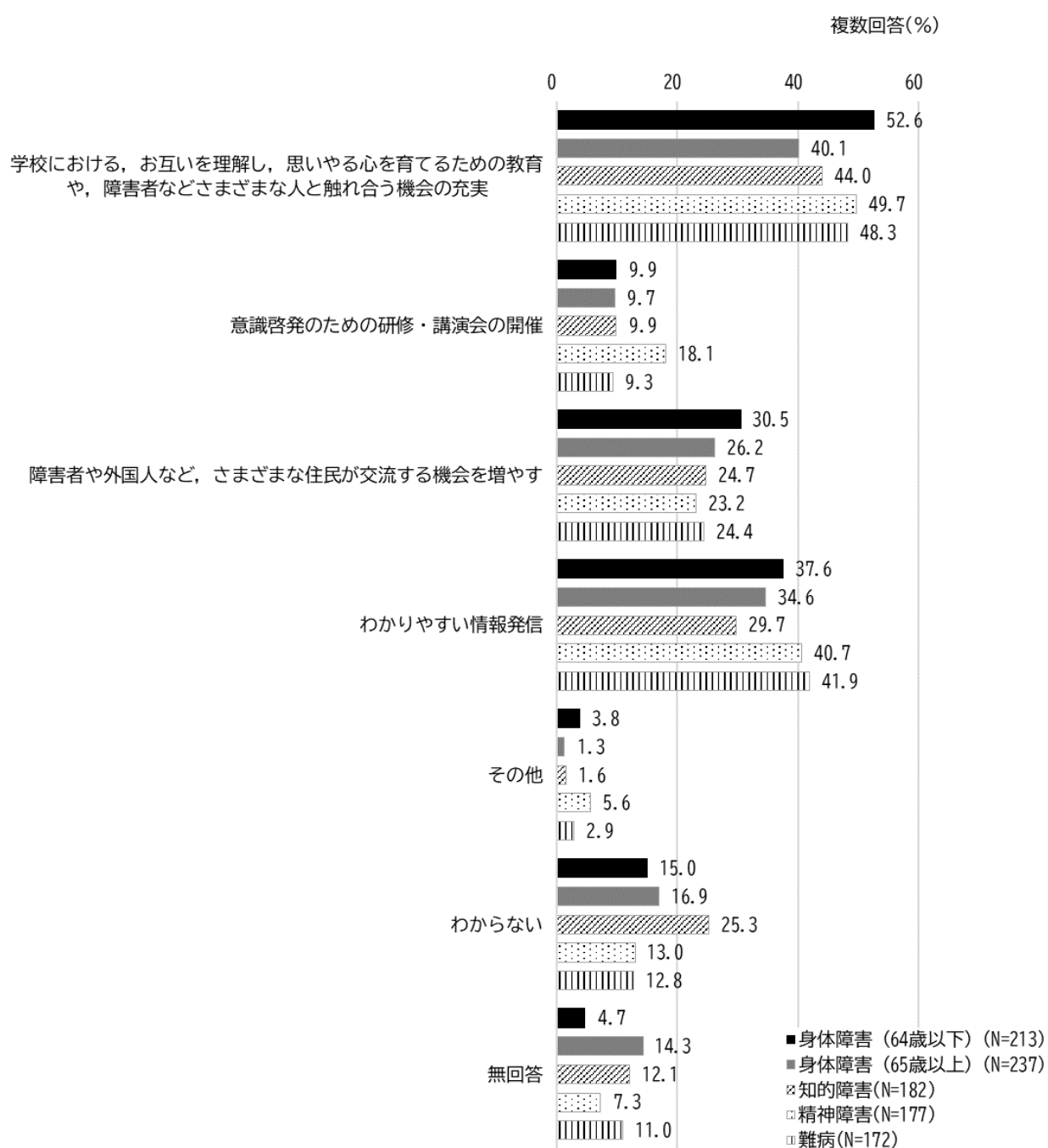
5 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

*心のバリアフリーの普及に必要な取組

問 27 誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思われますか。（2 つまで○）

- 心のバリアフリーのための取組は、身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多く，「わかりやすい情報発信」が続いている。

図表_障害者／心のバリアフリーのための取組（全体）

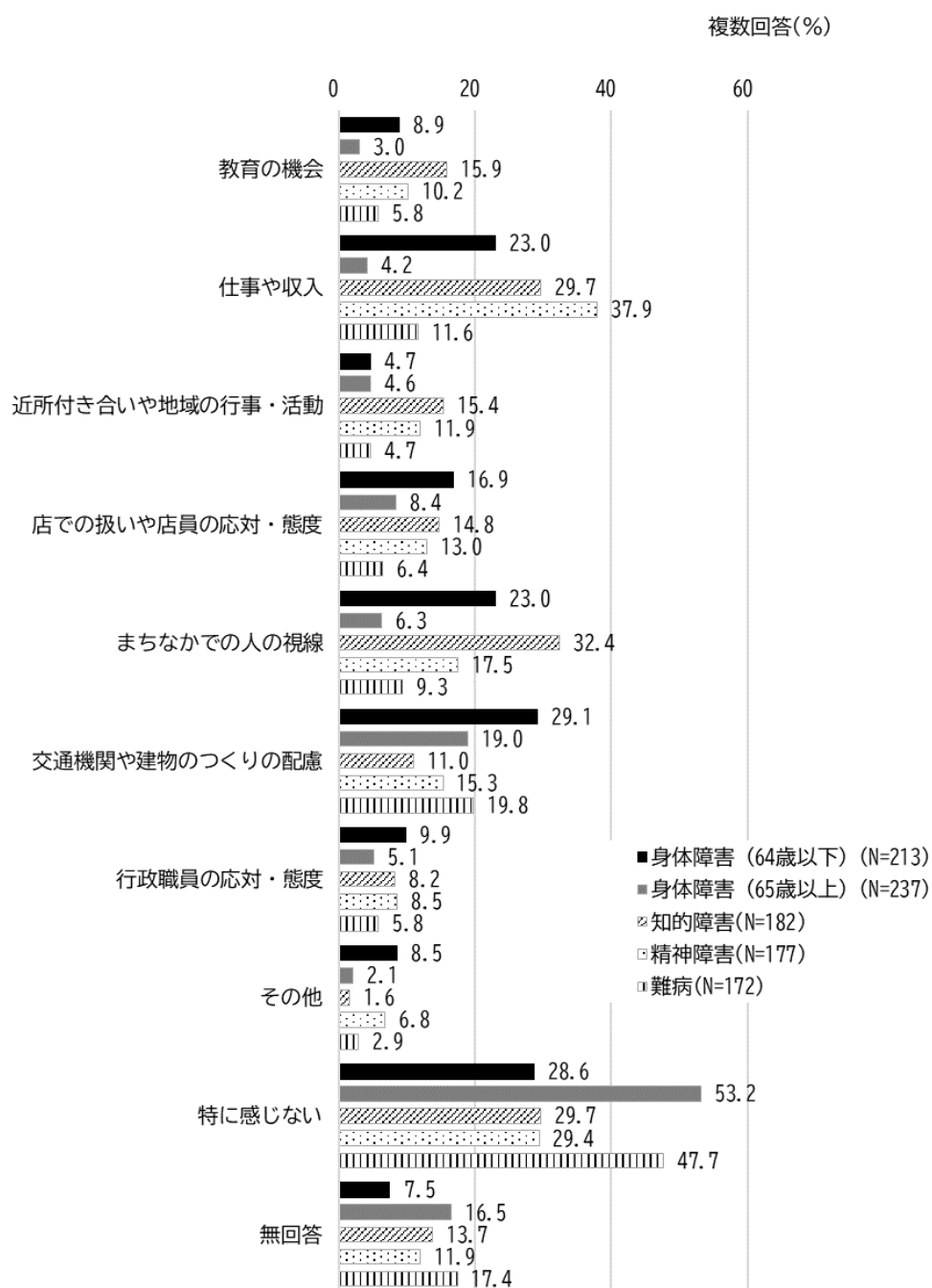


＊暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無

問 29 普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）

- 障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64 歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮（29.1%）」，身体障害（65 歳以上）は「特に感じない（53.2%）」，知的障害は「まちなかでの人の視線（32.4%）」，精神障害は「仕事や収入（37.9%）」，難病は「特に感じない（47.7%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面（全体）



6 主に本人の介助や支援をしているご家族におたずねします

* 介助者の不安

問 40 あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助や支援に当たってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- 主な介護者の不安や困りごとは、身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多く，それぞれの割合は 37.3%，44.9%，58.3%，48.3%，24.2%となっている。難病は「介助・支援をする家族自身の高齢化」と「特にない」が同率の数値となっている。

図表 障害者／主な介護者の不安や困りごと（全体）＜介護者の年齢に回答していただいた方＞

複数回答(%)

	障害や病気のことがよくわからない	適切な介助・支援の方法がわからない	自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）	自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい	自分の学校・学業がおろそかになる	介助・支援をする家族自身の高齢化	介助・支援をする家族自身も病気や障害がある	本人のほかにも介助・支援が必要な家族がいる	何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない	相談できる場所がない	障害のある当事者、家族同士の情報交換、交流の機会がない	経済的な負担が大きい	その他	特にない	無回答
身体障害（64歳以下）（n=118）	8.5	13.6	20.3	8.5	0.0	37.3	17.8	5.1	33.1	8.5	16.9	15.3	8.5	16.1	6.8
身体障害（65歳以上）（n=118）	11.0	13.6	24.6	3.4	0.0	44.9	20.3	11.9	25.4	13.6	5.1	19.5	0.8	15.3	7.6
知的障害（n=139）	1.4	5.8	18.0	11.5	0.0	58.3	13.7	14.4	36.7	5.8	15.1	12.2	4.3	16.5	1.4
精神障害（n=89）	19.1	21.3	19.1	12.4	0.0	48.3	29.2	15.7	31.5	15.7	14.6	33.7	6.7	11.2	9.0
難病（n=66）	16.7	15.2	18.2	6.1	0.0	24.2	16.7	3.0	22.7	3.0	1.5	16.7	1.5	24.2	9.1

（注）問 39 の回答者を全数として割合を算出

第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

- 回答者は、「親（98.5%）」が多くなっている。
- お子さんの学齢は、「小学校就学前（31.5%）」，「小学校就学後（67.7%）」である。
- お子さんの性別は、「男性（79.2%）」，「女性（19.2%）」，「回答しない（0.8%）」である。

2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

*生活上の活動機会の有無

問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。
（それぞれ1つに○）

- お子さんの生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（52.3%）』である。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、『友人・知人との交流』『スポーツ・運動※をする機会』『美術・音楽などの文化芸術活動※の機会』『ウ、エ以外の趣味や習いごと』となっている。

図表_障害児の保護者／お子さんの生活の中の活動機会の有無（全体）

N=130 設問毎の単数回答（%）

	十分にある	機会はあるが、 十分ではない	機会がない	必要ない・ できない	無回答
ア好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）	52.3	33.8	8.5	4.6	0.8
イ友人・知人との交流	23.1	48.5	23.1	4.6	0.8
ウスポーツ・運動をする機会	24.6	53.1	16.2	5.4	0.8
エ美術・音楽などの文化芸術活動の機会	17.7	40.0	34.6	6.9	0.8
オウ、エ以外の趣味や習いごと	16.9	25.4	40.8	14.6	2.3

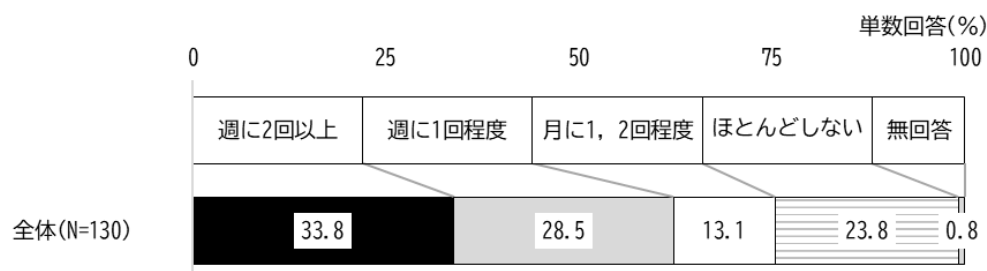
※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。

*スポーツ・運動をする頻度

問 13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。
(1つに○)

- スポーツ・運動をする頻度は、「週に2回以上(33.8%)」が最も多く、「週に1回程度(28.5%)」、「ほとんどしない(23.8%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／スポーツ・運動をする頻度(全体)

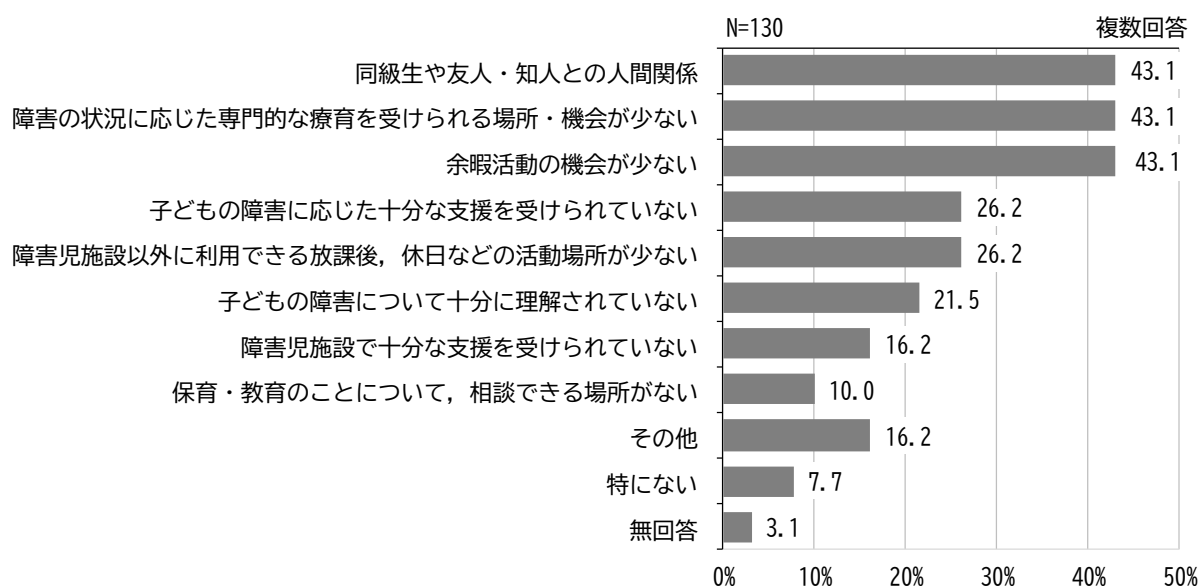


*子どもの日常生活に関する不安

問 14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- お子さんの日常生活の中での不安や課題は、「同級生や友人・知人との人間関係(43.1%)」、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない(43.1%)」、「余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など)の機会が少ない(43.1%)」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／お子さんの日常生活の中での不安や課題(全体)



(選択肢の補足説明)

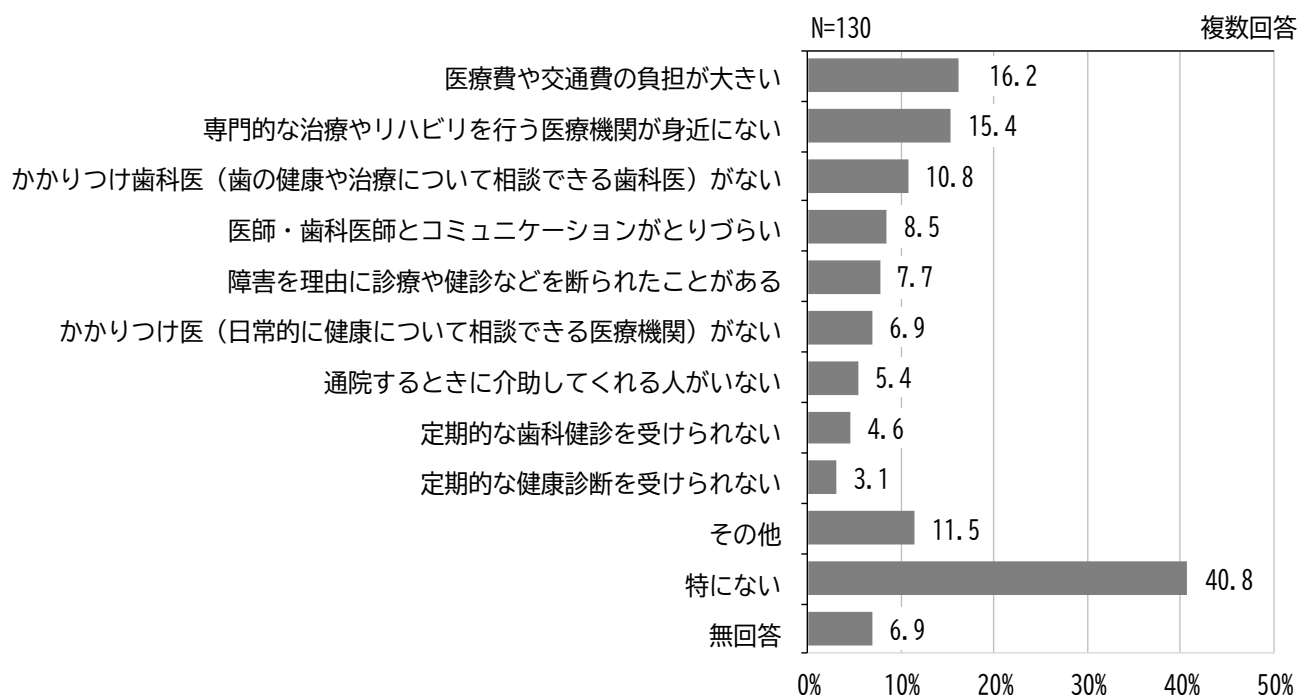
- ・余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など)
- ・障害児施設(子ども発達センター, 児童発達支援事業所, 放課後等デイサービスなど)

＊医療機関の受診で困ること

問 15 あて名のお子さんについて、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、「特にない（40.8%）」が最も多く、「医療費や交通費の負担が大きい（16.2%）」，「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない（15.4%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（全体）

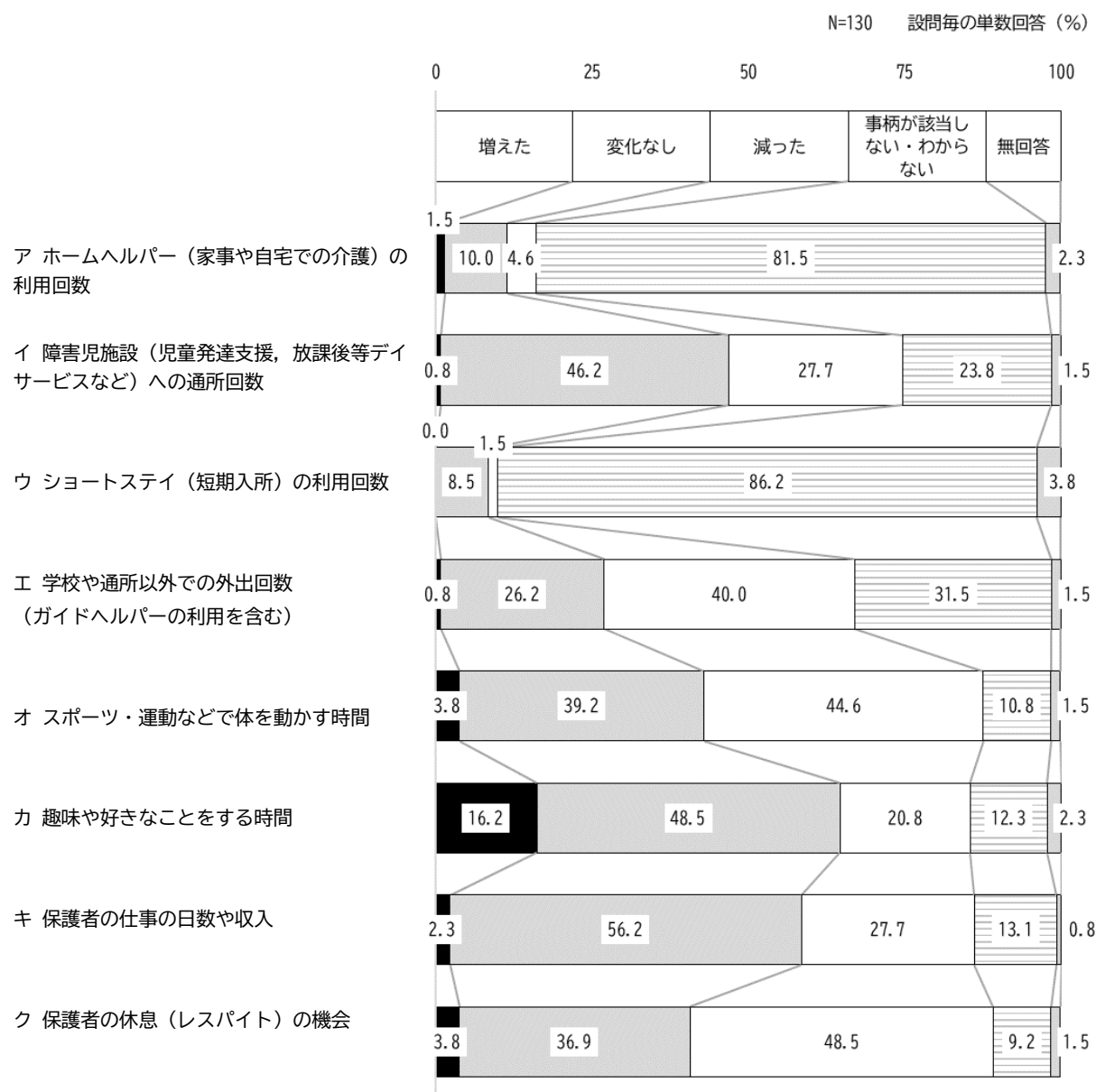


*コロナ禍による暮らしへの影響

問 16 コロナ禍によって、お子さんの暮らしに影響はありましたか。（それぞれ1つに○）

- コロナ禍によるお子さんの暮らしへの影響について、「増えた」が1割を超える活動は『趣味や好きなことをする時間（16.2%）』となっている。
- 一方、「減った」の割合は、『保護者の休息（レスパイト）の機会（48.5%）』が最も多く、『スポーツ・運動などで体を動かす時間（44.6%）』，『学校や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（40.0%）』が続いている。

図表 障害児の保護者／コロナ禍によるお子さんの暮らしへの影響（全体）



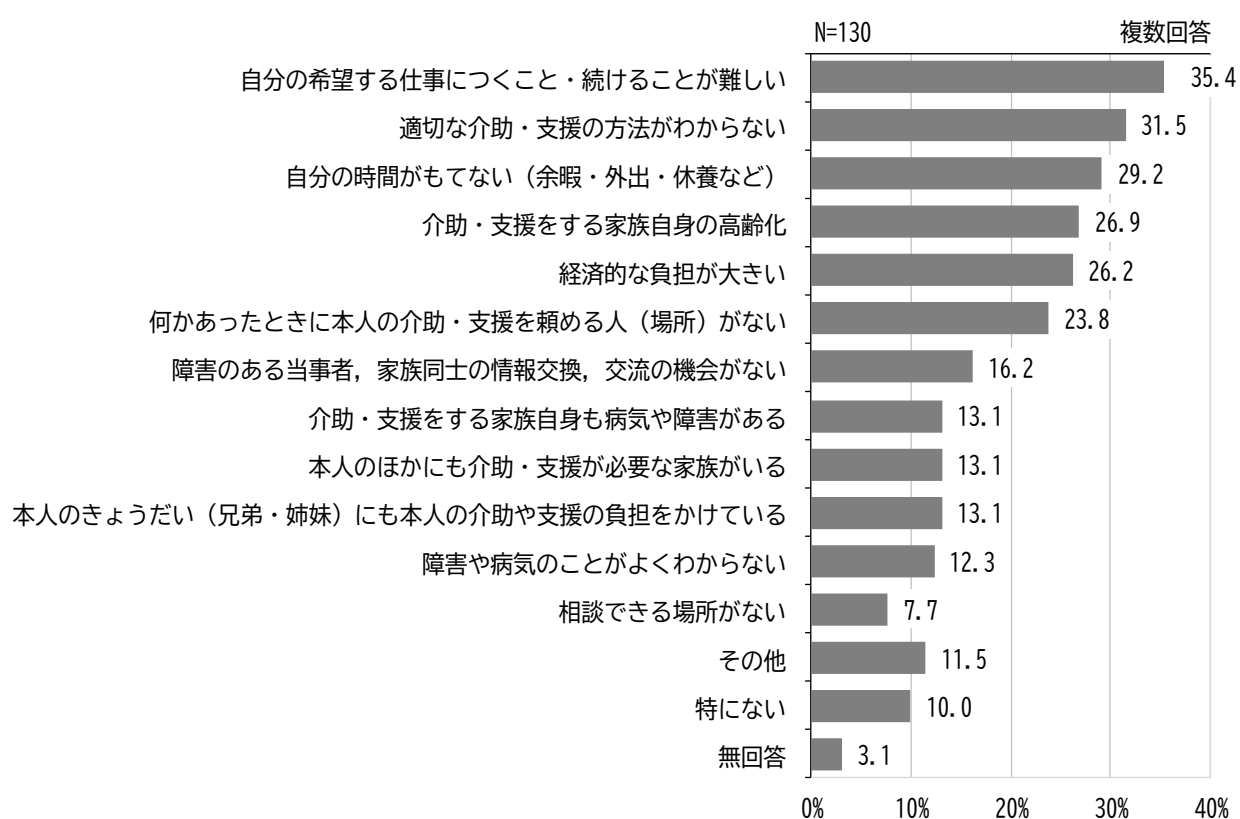
3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

*介助の不安

問 22 あなた（保護者）は、介助や支援に当たってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- 介助や支援の不安や困りごとは、「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい(35.4%)」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない(31.5%)」, 「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（29.2%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／介助や支援の不安や困りごと（全体）

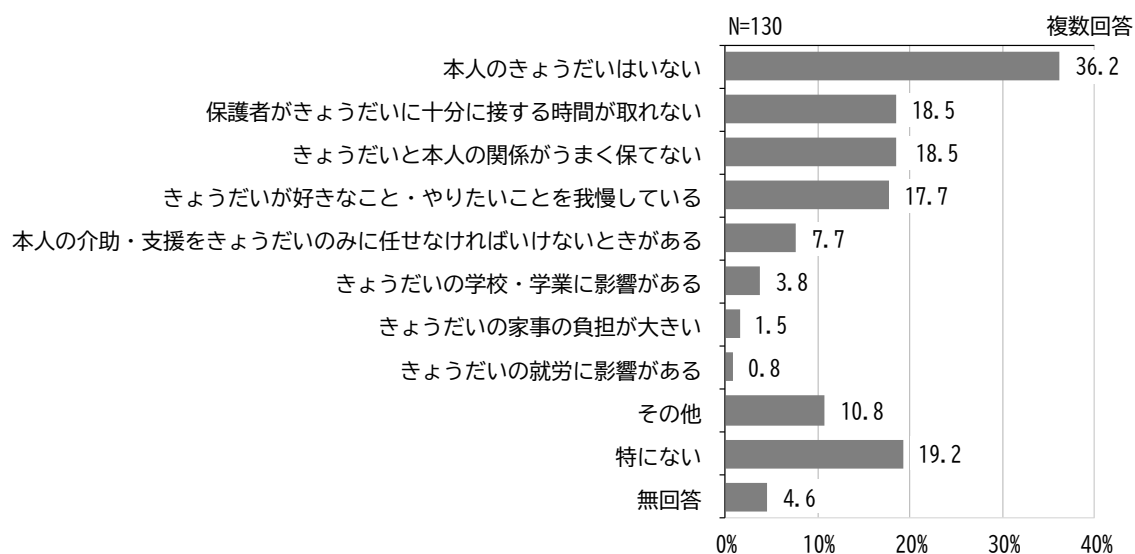


＊本人の介助できょうだいの不安や困りごと

問 23 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）に関する不安や困りごとは、「本人のきょうだいはいない（36.2%）」が最も多く、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない（18.5%）」と「きょうだいと本人の関係がうまく保てない（18.5%）」が続いている。

図表 障害児の保護者／お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）に関する不安や困りごと（全体）



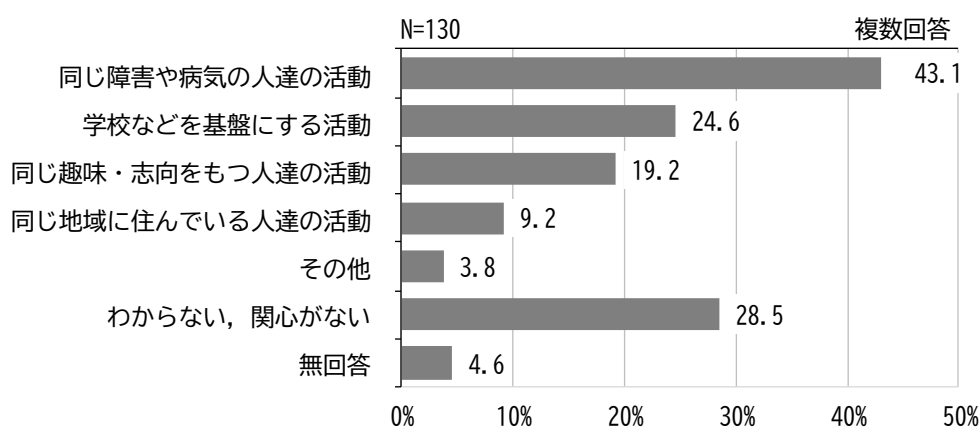
4 保護者の方に、市民同士の支え合いについておたずねします

*参加しやすい地域活動の種類

問 25 近年、さまざまな主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすい活動は何ですか。（いくつでも○）

- 保護者が参加しやすい地域活動は、「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）（43.1%）」が最も多く、「わからない、関心がない（28.5%）」、「学校などを基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会など）（24.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者が参加しやすい地域活動（全体）



（選択肢の補足説明）

- ・ 同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）
- ・ 学校などを基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会など）
- ・ 同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）
- ・ 同じ地域に住んでいる人達の活動（自治会・地区協議会・老人クラブ・マンション管理組合など）

*地域活動・ボランティア活動への取組意向

問 26 あなた（保護者）は、今後、地域活動・ボランティア活動に取り組みたいでするか。（1つに○）

- 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「機会があれば、取り組んでもよい（41.5%）」が最も多く、「あまり取り組みたくない（21.5%）」、「取り組みたいが、できない（20.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向（全体）

N=130 単数回答 (%)

積極的に、取り組んでいきたい	できるだけ、取り組んでいきたい	機会があれば、取り組んでもよい	取り組みたいが、できない	あまり取り組みたくない	無回答
3.1	10.0	41.5	20.8	21.5	3.1

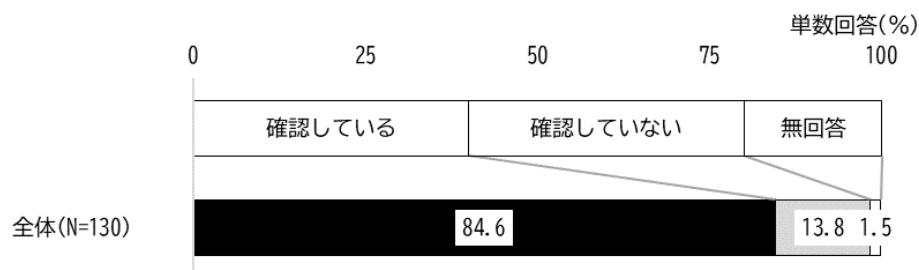
5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

*避難場所・避難経路・警戒区域等の確認状況

問 27 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1 つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認は、「確認している（84.6%）」、「確認していない（13.8%）」である。

図表_障害児の保護者／避難場所・避難経路・警戒区域などの確認（全体）

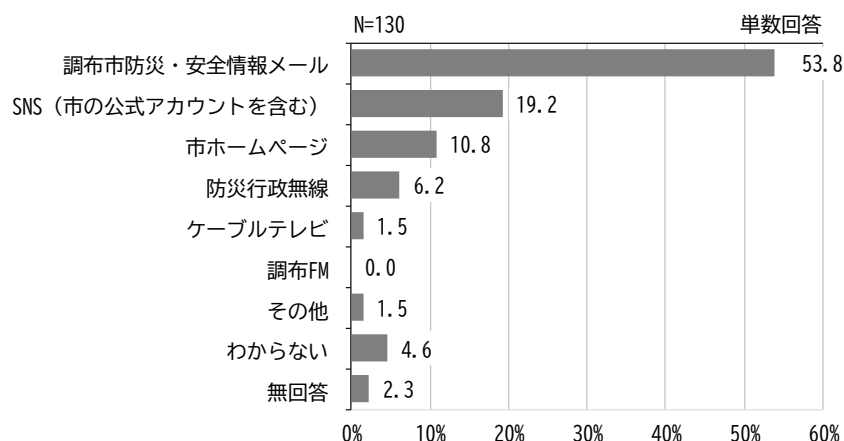


*緊急時の情報入手先

問 28 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1 つに○）

- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール（53.8%）」が最も多く、「SNS（市の公式アカウントを含む）（19.2%）」、「市ホームページ（10.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／緊急時の避難情報の入手先（全体）



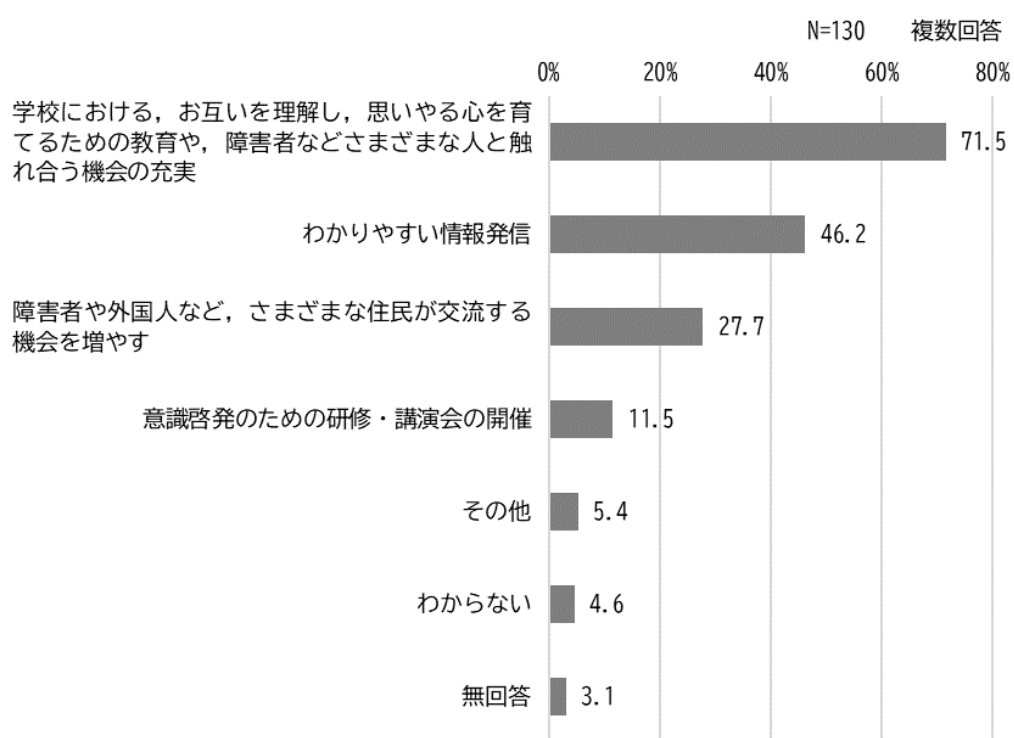
6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについて おたずねします

*心のバリアフリーの普及に必要な取組

問 31 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思われますか。（2 つまで○）

- 心のバリアフリーのための取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（71.5%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（46.2%）」，「障害者や外国人など，さまざまな住民が交流する機会を増やす（27.7%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／心のバリアフリーのための取組（全体）

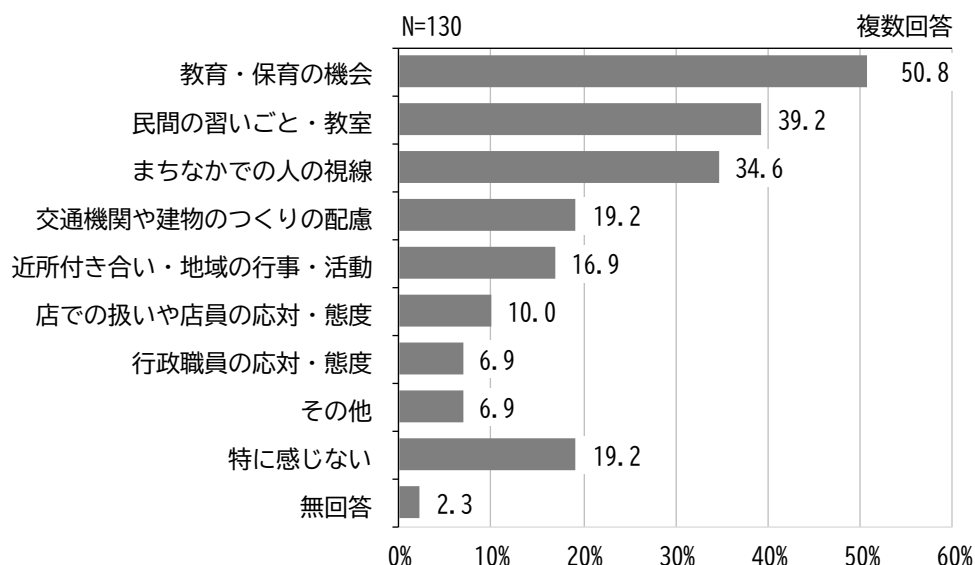


＊暮らしや外出時の差別，偏見，配慮の有無

問 33 あなた（保護者）は，お子さんが生活する中で，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じることはありますか。（いくつでも○）

- お子さんの障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，「教育・保育の機会（50.8%）」が最も多く，「民間の習いごと・教室（39.2%）」，「まちなかでの人の視線（34.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんの障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面（全体）



7 保護者の方に，デジタルの活用についておたずねします

＊市の保健福祉情報の入手先

問 36 あなた（保護者）は，調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は，「市の広報紙・チラシ（56.9%）」が最も多く，「市のホームページ（50.8%）」，「家族，友人・知人からの口コミ（29.2%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（全体）

N=130 複数回答 (%)

市の広報紙・チラシ	市のホームページ	家族，友人・知人からの口コミ	市役所・相談機関などの窓口	SNS	テレビ（ケーブルテレビを含む）・ラジオ	その他	特にない，情報は入手していない	無回答
56.9	50.8	29.2	16.2	14.6	3.1	5.4	7.7	0.8

住民懇談会の結果の概要

1 緑ヶ丘・滝坂小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Aグループ
①	● みんながネット使える ● 身近でスポーツ遊べる公園やスーパーで ● 何も注意されないリラックスできる ● 交通の便 ● いたるところにベンチ ● 子どもが安心できる ● 誰でもいつでも来れる。内と外かきねない ● 昔はあった ● 地域の情報がある
②	● 似た者同士 win-win ● お互い一方通行でない ● 参加しなくてもいい場所 ● 枠外（テーマなし）
③	● コミュニティごとの広報紙あるといい ● 行政区どう考える？ ● 口コミ、声かけ（友人など） ● 枠外（テーマなし）

2 若葉・調和小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Bグループ
①	● 民間施設 ● バリアフリー ● ネット環境 ● 公共性
②	● あったらしいもの ● 趣味、スポーツ、文化 ● みんなでできる ● バザー
③	● SNS ● チラシ類 ● メディア ● 枠外（テーマなし）

3 上ノ原・柏野小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Aグループ	Bグループ
①	● 時間, 条件 ● 室内 ● 公共施設 ● 屋外（屋根なし）	● 学校系 ● 公共（屋根有） ● 公共（屋根無） ● 民間 ● 枠外（テーマ無）
②	● 気楽に集まれる ● 町を知る ● 体操, スポーツ ● 屋外企画 ● ゲーム系 ● 勉強 ● 枠外（テーマ無し）	● 人 ● ICT 活用 ● 趣味 ● 多世代交流 ● 体を動かす
③	● アナログ紙の広報 ● にんじん作戦 ● 地域のつながり ● 子どものつながり ● デジタル広報 ● イベント類	● デジタル ● アナログ

4 北ノ台・深大寺小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Cグループ	Dグループ
①	● 屋内（銭湯） ● 屋内（空屋） ● 屋内（公共施設） ● 屋外（お寺など） ● 屋外（公園, 緑が多い） ● 屋外（畑, 空き地）	● 居場所 ● 施設（無料で使える） ● お店 ● 出会う場
②	● 健康系 ● 散歩系 ● 教室系 ● お話し ● 屋外活動 ● 娯楽 ● 一人でも楽しめる ● 工作	● 音楽 ● 食べること ● 安心できる ● 運動
③	● 回覧 ● 学校など ● 公共 ● SNS など ● 地域の各集まり ● チラシ, ポスター ● 地域の店舗	● 伝え方（ネット） ● 伝え方（話すこと） ● 伝え方 ● 伝え方（紙ベース） ● どんな人に来て欲しい

5 第二・八雲台・国領小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Aグループ	Bグループ	Cグループ
①	● サロン ● 公的な場所 ● お店 ● 居場所 ● 枠外（テーマ無し）	● 屋外でもよいところある ● 市の施設 ● 公共施設のようなところ，誰でも使える ● 人が流れる場所，不特定の人がいてもよい ● やっぱりお店 ● 時間外に使わせてほしい ● 空き家も使える ● 枠外（テーマなし）	● 趣味 ● 学校 ● 屋外施設 ● 住居の活用
②	● 運動 ● 食事 ● 話す ● 学習・勉強 ● 相談 ● 趣味 ● イベント	● みんなでゲームとか頭を使ってボケ防止勉強，脳トレ ● みんなで楽しく ● 雑談ができる，リラックス ● たのしく食事 ● 料理で学んで食べて自慢話なども ● うつぶしも晴らすことができる ● 趣味，ボケ防止できる	● ボランティア ● 運動 ● 趣味，学び ● ストレス発散 ● みんなで楽しむ
③	● 掲示 ● 電波 ● 人から人 ● 広報 ● 枠外（テーマ無し）	● ちらし ● 市 ● SNS ● 講習会 ● HP ● 手段 ● 人が寄ってくる基本（思い） ● 情報発信（いろいろな媒体をつかって） ● 情報発信（人から人へ伝える）	● リタイア後 ● 目印 ● アナログ ● ネット ● 高齢者向け，直接的

6 染地・杉森・布田小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Dグループ	Eグループ	Fグループ
①	● 仕組み，概念 ● 場所 ● 場所だけあっても…	● 雰囲気 ● 条件 ● 場所	● ふらっと入れる ● 施設の条件 ● オンライン ● 近さ
②	● 工夫 ● 具体的な活動 ● つながり ● その他	● したいこと ● 居て欲しい人	● みんなで ● 交流 ● 飲食 ● 教え合う ● 体を動かす
③	● 一番大事なこと ● 手段 ● 工夫	● 集りを知らせる方法 ● 仲間を増やす	● 工夫 ● チラシ ● 草の根作戦 ● 掲示（板） ● SNS

7 第一・富士見台・多摩川小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Aグループ	Bグループ
①	● 設備のこと ● 楽しく健康づくり ● 空き家の活用 ● 子どもとおとな交流の場 ● 公園 ● 癒しの場 ● ネット	● 交流できる場所、イベント ● 気軽に一人でふらっと ● 施設、場所 ● 公園、自然 ● 飲食 ● 枠外（テーマなし）
②	● 趣味活動 ● 情報交流交換 ● 子どもの笑顔とママとパパの安心	● イベント、運動 ● カラオケ ● 学習、学び ● 飲食、サービス ● 相談事 ● おしゃべり
③	● 公的 ● 各組織、学校を使って ● ネット ● 人から人へ	● 地域の情報 ● 市報など広報媒体 ● 内容 ● ポスター、チラシ ● 友達、口コミ ● スマホ、TEL

8 第三・石原・飛田給小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名称）（原文どおり）

テーマ	Cグループ	Dグループ
①	● 集まりやすさ ● ～誰でもいつでも～ ● 発想を変える生活の視点	● バリアフリー ● 施設の一部 ● 公共施設 ● 店舗の一部 ● 家 ● 楽しい空間 ● 青空広場
②	● 訓練 ● お互いを知る ● 楽しむ	● 安心、生きがい ● 好きな活動 ● 学び ● 相談
③	● 支援できる ● 安心、分かりやすい ● 当事者の声	● 必要なこと ● 伝える手段 ● 巻き込みたい人 ● 口コミ ● SNS ● 紙媒体

調査のまとめ

第1章 地域別のまとめ

1 緑ヶ丘・滝坂小学校地域

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
● 経済的な理由で困った経験は、「困ったことはない」が最も多いものの、『困ったことがある』（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）が3割を超えている。（問18） ● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「市民への福祉意識の啓発（19.6%）」が全体（12.1%）に比べやや多くなっている。（問33）	● 介護の状況は、「介護を受けていない」が9割となっている。（問7） ● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（43.5%）」が最も多くなっている。（問8） ● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「同居の家族（70.1%）」が全体（64.9%）に比べやや多くなっている。（問30） ● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援（45.6%）」が全体（39.2%）に比べやや多くなっている。（問37）
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
● 本人の就労状況は、「仕事をしていない（52.9%）」が全体（40.2%）に比べ多くなっている。（問16） ● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（32.4%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（51.0%）」を合わせた『住みやすい』が8割を超えている。（問25）	● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（36.4%）」が3割を超えている。（問29） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備」「学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備」が同率（45.5%）で最も多くなっている。（問41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、インターネットやスマートフォンを誰もが使えるような場、公園やスーパー等、身近な既存の誰もが来られる場、誰もがリラックスでき、地域の情報も得られるような場が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、双方向で学び合うことができ、win-winの関係になれる内容や、見ているだけでも良いような、参加をしなくても良いこと等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、まず行ってみるといった「最初の一步」が重要であることや、コミュニティごとの広報紙、口コミ、声かけ（友人など）が挙げられた。

2 若葉・調和小学校地域

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
● 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『安否確認の声かけ』と『災害時避難の手助け』が同率で最も多くなっている。（問 9「できる・してもいい」） ● 経済的な理由で困った経験は、「困ったことはない」が最も多いものの、『困ったことがある』（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）が 3 割を超えている。（問 18） ● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「同居の家族」と「別居の家族や親戚」が同率で最も多くなっている。（問 21） ● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「市民同士が支え合う仕組みの充実（21.4%）」が全体（15.3%）に比べやや多くなっている。（問 33）	● 介護の状況は、「介護を受けていない」が 9 割となっている。（問 7） ● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（40.0%）」が最も多くなっている。（問 8） ● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「安価な賃貸住宅の供給（23.6%）」が全体（17.0%）に比べやや多くなっている。（問 37）
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
● 持っている手帳の種類は、「特定医療費（指定難病）受給者証（難病医療証）（26.3%）」が全体（18.7%）に比べやや多くなっている。（問 7）	● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（9.1%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（81.8%）」を合わせた『住みやすい』が 9 割を超えている。（問 29） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（72.7%）」が最も多くなっている。（問 41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、駐車場やショッピングセンター等の民間施設、バリアフリーに配慮された空間、公共施設、ネット環境を利用できる場が挙げられた。
- ② 集まってできたらしいこととして、ボードゲームがある、飲食・飲酒などができることと良いこと、趣味、スポーツの活動、バザーや祭り、遊び等どのような世代でも行きやすいことが挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、SNS やチラシ類、口コミ等が挙げられた。

3 上ノ原・柏野小学校地域

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
● 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『災害時避難の手助け』が最も多くなっている。（問 9「できる・してもいい」） ● 利用している身近な拠点は、「図書館」が最も多くなっている。（問 12） ● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「市民・関連団体・行政の連携と協働の推進（15.1%）」が全体（10.9%）に比べやや多くなっている。（問 33）	● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」が最も多くなっている。（問 37）
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（26.5%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（62.7%）」を合わせた『住みやすい』が 8 割を超えている。（問 25）	● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（11.8%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（82.4%）」を合わせた『住みやすい』が 9 割を超えている。（問 29） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（70.6%）」が最も多くなっている。（問 41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、公民館、児童館、公園等の公共施設や、民間施設として寺社仏閣、パブ、企業との協働によるスペース活用等が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、まちめぐりや地図作りなど地域を知る内容や勉強会、体操、スポーツ、趣味活動のほか、多世代が交流でき気楽に集まれる場が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、紙による広報やデジタルの活用、地域協議会、民生委員、参加者同士のつながり等を活用した情報発信が挙げられた。

4 北ノ台・深大寺小学校地域

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
● 住居形態は、「持ち家（一戸建て）」が 7 割を超えている。（問 5） ● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が 4 割を超える高い数値となっている。（問 8）	● 介護の状況は、「介護保険制度を利用して介護を受けている」が 1 割となっている。（問 7） ● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（42.2%）」が最も多くなっている。（問 8） ● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者（15.7%）」が全体（10.2%）に比べやや多くなっている。（問 30）
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
● 希望する暮らし方は、「親や兄弟などの家族と一緒に生活する（33.3%）」が最も多くなっている。（問 11） ● 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「あまり取り組みたくない（33.3%）」が最も多くなっている。（問 13） ● 本人の就労状況は、「仕事をしていない（28.6%）」が全体（40.2%）に比べ少なく、「非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）（23.8%）」「障害者施設（作業所など）（17.9%）」がやや多く（全体はそれぞれ 17.0%, 12.7%）となっている。（問 16） ● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（14.3%）」と「住みやすいと思わない（11.9%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が 2 割を超えている。（問 25）	● 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「取り組みたいが、できない（40.0%）」が最も多くなっている。（問 26） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「手当や医療費の助成などの経済的な支援（80.0%）」が最も多くなっている。（問 41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、空き家、空き店舗、休耕地や田畑の活用、銭湯、寺社仏閣、飲食店等との協力、公共施設が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、古地図の活用やまち歩き等の散歩、認知症や障害児がスタッフとなる食堂・カフェ等多様な人たちがお話できる場、娯楽・運動のほか、キャンプや星空観賞、ヨガ等、一人でも楽しめる内容が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、回覧や掲示板、チラシ等の紙媒体、コンビニや銭湯等の地域店舗へのチラシ配架、学校や子ども会の活用、SNS の活用等が挙げられた。

5 第二・八雲台・国領小学校地域

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
● 住居形態は、「持ち家（一戸建て）」と「民間賃貸（集合住宅）」が同率で最も多くなっている。（問5） ● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が3割に満たない数値となっている。（問8） ● 経済的な理由で困った経験は、「困ったことはない」が最も多いものの、『困ったことがある』（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）が3割を超えている。（問18） ● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。（問21） ● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「相談体制や情報提供の充実（65.2%）」が全体（55.1%）に比べ多くなっている。（問33）	● 介護の状況は、「介護を受けていない」が9割となっている。（問7） ● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（40.6%）」が最も多くなっている。（問8）
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
● 持っている手帳の種類は、「精神障害者保健福祉手帳（19.9%）」が全体（14.8%）に比べやや多くなっている。（問7）	● 希望するお子さんの暮らし方は、「親やきょうだい（兄弟・姉妹）などの家族と一緒に生活する」「グループホームで生活する」（31.6%）が最も多くなっている。（問20） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」「手当や医療費の助成などの経済的な支援」「発達に関する相談や療育の充実」が同率（68.4%）で最も多くなっている。（問41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、多摩川や公園等屋外の良いところの活用、大学等の教育施設、人が流れる・不特定の人がいて良いような駅前広場やスーパー、公共施設・空き家の活用等が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、運動・食事、趣味や遊びの場、気分転換や好きな話ができる場、子どもの宿題を見る場、サロンで相談ができる場等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、掲示、ラジオ・ケーブルテレビやSNS等の活用、公共施設でのチラシ配架、口コミ、自治会やサロン、リタイア後のサークル等のコミュニティの活用等が挙げられた。

6 染地・杉森・布田小学校地域

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
● 地域の暮らしの中での不安や課題は、「災害時のこと」が最も多くなっている。（問 23） ● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保（38.0%）」が全体（32.4%）に比べやや多くなっている。（問 33）	● 介護の状況は、「介護保険制度を利用して介護を受けている」が 1 割となっている。（問 7） ● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が 6 割を超える高い数値となっている。（問 8）
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
● 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「あまり取り組みたくない（33.9%）」が最も多くなっている。（問 13）	● 小学生の保護者が放課後活動に求めていることは、「体を動かす（80.0%）」が最も多くなっている。（問 11） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（83.3%）」が最も多くなっている。（問 41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、柔軟に活用でき、誰でも入れる、初めの一步目が出しやすい雰囲気のある場所、小中学校、地域福祉センター、カフェ等の活用、様子が確認でき、ユニバーサルデザインとなっている場、多摩川河川敷、オンラインの場等が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、スポーツ観戦や体験活動、相互に学べる活動や、親子が自己肯定感を高める場、おしゃべりできる場等が挙げられた。また、その場に居てほしい人としてインターネット等 I C T 活用を教えてくれる人、話をゆっくり聞いてくれる人等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、SNS やホームページ、チラシや掲示板活用、口コミ等の手段のほか、普段の付き合いを大切にすること、小中学校等、子ども関係を巻き込むこと、事前申し込みを不要にするなどの情報発信の際の工夫の重要性も挙げられた。

7 第一・富士見台・多摩川小学校地域

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
● 住居形態は、「持ち家（集合住宅）」が最も多くなっている。（問 5） ● 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向について、「取り組みたい、興味がある」の割合は、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動』が最も多くなっている。（問 11「取り組みたい、興味がある」） ● 利用している身近な拠点は、「図書館」と「どこも利用していない」が同率で最も多くなっている。（問 12） ● 地域の暮らしの中での不安や課題は、「災害時のこと」が最も多くなっている。（問 23）	● 地域活動・ボランティア活動に今後は「取り組みたい、興味がある」の割合をみると、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（30.5%）』が全体（23.2%）に比べやや多くなっている。（問 13「取り組みたい、興味がある」）
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
● 本人の就労状況は、「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない（45.6%）」が全体（40.2%）に比べやや多くなっている。（問 16）	● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（20.0%）」と「住みやすいと思わない（16.0%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が3割を超えている。（問 29） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（68.0%）」が最も多くなっている。（問 41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、広場や空きスペースにテーブルやベンチを置いて活用することや、空き家の活用、短時間で行ける場所、公園や多摩川等、自然を感じられる場が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、趣味活動、情報交流交換、多世代や親子が交流できる場所のほか、スマホ・料理教室やワークショップ等の学び、飲食できる場、ちょっとした困り事の相談ができる場などが挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、市報や公民館等へのチラシ配架、かかわりのある病院、保育園、自治会等の各組織の活用、口コミ、SNS の活用が挙げられた。

8 第三・石原・飛田給小学校地域

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が 4 割を超える高い数値となっている。（問 8） ● 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『災害時避難の手助け』が最も多くなっている。（問 9「できる・してもいい」） ● 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向について、「取り組みたい、興味がある」の割合は、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動』と『趣味・習いごとなどの活動』が同率で最も多くなっている。（問 11「取り組みたい、興味がある」） ● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化（23.3%）」が全体（16.1%）に比べやや多くなっている。（問 33）	● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が同率で最も多くなっている。（問 37）
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
● 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「あまり取り組みたくない（35.3%）」が最も多くなっている。（問 13） ● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（17.0%）」と「住みやすいと思わない（9.8%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が 2 割を超えている。（問 25）	● 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「機会があれば、取り組んでもよい」「取り組みたいが、できない」（38.9%）が同率で最も多くなっている。（問 26） ● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（27.8%）」と「住みやすいと思わない（5.6%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が 3 割を超えている。（問 29） ● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（77.8%）」が最も多くなっている。（問 41）

●住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、障害の有無にかかわらず誰もがいつでも集まることができる場、公共施設や店舗の一部開放、河原や畑、公園などの屋外が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、防災に関する訓練やまち歩き、世代や障害の有無を越えて相互理解ができる場、映画や演奏、ダンスなどの好きな活動を行える楽しい場、相談できる場等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、ユニバーサルデザイン等誰もが安心して参加できる場であることを周知することや、口コミ、紙媒体、SNSのほか、友人、地域包括支援センターの職員、民生児童委員等の信頼できる関係性から情報を伝えることが挙げられた。また、そのような場に来てほしい対象として、ひきこもりや子育て中の親、障害者等、外に出る機会が少ない人が挙げられた。

第2章 アンケート調査から見えた課題

1 調布市民の福祉意識と地域生活について

(1) 身近な居場所の充実を図る必要がある

住民が気軽に交流したり，困りごとを相談し合えるよう，住民主体の活動拠点として多世代・多様な主体が集うことができる居場所を整備するとともに，新しいつながりの形として，デジタルを活用した居場所づくりに向けた支援を推進していく必要がある。

(2) 地域での支え合いの仕組みづくりを推進する必要がある

地域福祉コーディネーターを中心として，地域の支え合いの仕組みづくりを支援するとともに，福祉圏域における住民の主体的な福祉活動を推進するため，地域の担い手となる人材の確保，育成に取り組む必要がある。

(3) 複雑化・複合化した課題を抱えている世帯や個人を包括的に支援する体制を構築する必要がある

相談支援機関等の連携を進め，包括的に相談を受け止め，多機関協働による重層的な支援を進めていく必要がある。

(4) 福祉のまちづくりを推進する必要がある

ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを引き続き推進し，誰もが安心して過ごすことができる，人にやさしい福祉のまちづくりを推進する必要がある。

(5) 災害時に住民同士で支え合いができる防災対策を推進する必要がある

防災対策については住民の関心が高いことから，日常的な地域の支え合いを通じて，身近な地域での災害時の避難の手助けなど，災害時における避難支援体制の整備を推進する必要がある。

(6) 多様性を認め合う意識を育む必要がある

地域共生社会の充実に向けて，多様性を認め合う意識の醸成を図るとともに，様々な理由で困難を抱えている人や困っている人，社会的に孤立している人を支援につなげられるよう，福祉に関する法律・制度や取組を，引き続き周知していく必要がある。

2 高齢者の福祉意識と地域生活について

(1) 健康づくり、介護予防活動を支援する取組が必要である

高齢者はフレイル予防に意欲的であり、「健康・体力維持」のために仕事をする意欲を持っている。市の健康づくりや介護予防事業に加えて、あらゆる分野での取組・施策の可能性を検討し、元気高齢者を支援する環境づくりに取り組むことが必要である。

(2) 多様な主体による見守りと支え合いの輪を広げる取組が必要である

潜在的な互助意識の高さがうかがえる結果となり、今後は、まわりの人への実際の手助けにつなげていくことが大事になる。今後の更なる高齢化により、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加が見込まれるため、地域特性や地域資源を生かしながら、多様な主体による見守り・支え合いの輪をさらに広げる取組や仕組づくりが必要である。

(3) 社会参加、趣味・生きがいづくりへの支援が必要である

高齢者の社会参加は、健康寿命の延伸や介護予防の観点からも、ますます重要なテーマとなる。地域資源の活用や参加しやすい条件・環境に配慮する視点を持つとともに、高齢者の居場所（サードプレイス）をきっかけ（入り口）として、社会参加や趣味・生きがいにつなげていく仕掛けが必要となる。

(4) 介護者の心身の負担を軽くするための環境づくりが必要である

高齢者人口や要支援・要介護認定者数の増加に伴い、今後も介護者数の増加が想定されることから、介護者の心身の負担を軽減するための環境づくり・取組がますます重要となる。支援制度等の周知や相談窓口・相談体制の充実とともに、当事者同士が集える場の拡充や認知症サポーターを始めとした市民による支え合いを生かした取組が必要となる。

(5) 高齢者への早い時期からの認知症予防の働きかけが必要である

高齢者人口の増加や平均寿命の延伸に比例して認知症高齢者の増加が想定され、今後もますます認知症は重要な課題となる。相談支援体制の充実、早期発見・早期対応や重度化防止の取組のほか、高齢者自身が早い時期から認知症予防を生活の中に取り入れるような働きかけも必要となる。また、認知症があっても住み続けられよう地域の方への認知症に対する啓発や専門職が適切に関わる体制づくりも重要である。

(6) 相談窓口の認知度向上とアウトリーチ活動の充実が必要である

問題の多様化・複雑化だけでなく、新たに生じる課題に対応していくため、相談支援に関わる機関が連携し、適切な相談窓口につなげられるよう、ネットワークを構築することや、各相談窓口の認知度向上やアウトリーチ活動の充実が必要である。

3 障害のある方の福祉意識と地域生活について

(1) 病気や障害をもちながら在宅で暮らす人のQOL（生活の質）を高める取組が必要になる

国の社会保障制度の動向も踏まえ、費用面や医療機関の受診のしやすさなど、医療の不安を軽減する対策とともに、デジタル技術の活用も視野に入れながら、病気や障害をもちながら在宅で暮らす人たちのQOL（生活の質）を高める取組を関係機関と検討していく必要がある。

(2) 障害児・者が地域で暮らし続けるため、多様な住まいの確保や心身の障害に合わせた地域包括ケア体制の強化が必要である

病気や障害があっても地域で暮らし続けるために、障害の種別や重さに関わらず、希望する住まいの場を確保できる体制や、多分野・多機関の連携、市の取組と地域活動との連動など、縦横のつながりを組み合わせて心身の障害に対応する市全体の地域包括ケア体制の強化が必要である。

(3) 地域資源を活用し、障害児・者が居場所（サードプレイス）、余暇・スポーツ活動の機会を増やす取組が必要である

病気や障害のある人が、趣味や余暇活動、スポーツ活動、地域での活動などの社会への参加に主体的に取り組めるよう、活動機会の充実や活動場所の充実がますます重要であり、地域資源を活用した「活動場所」を地域の居場所（サードプレイス）とし、そこに多くの人が集まり、交流を生み出す仕掛け（取組）が必要である。

(4) 病気や障害への理解を深め、共生社会に向けた気運を高める必要がある

障害者自身や障害児の保護者は、生活の中の様々な場面で障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じている。障害者本人、市民、市、民間、地域と一緒に実践的な取組を進め、ともに生きる社会の充実（『パラハートちょうふ』）に向けた気運を高めていくことが必要である。

(5) 障害児・者の家族・介護者を支援するため、多くの分野や地域との連携が必要である

コロナ禍もあり、介護者自身の年齢、仕事、休息などへの不安が高まっているほか、きょうだい児についても、きょうだいに接する時間や、きょうだいと本人の関係に不安を抱えるなどの課題もみられる。障害児・者と家族を支えるため、福祉、住宅、就労、教育、防犯・防災分野など、多くの分野や地域の見守りとの連携が必要である。

(6) 災害時への備えの徹底と、避難が困難な状況の障害者等を支援する体制の強化を図る必要がある

近年、全国で発生している地震や風水害などに対する防災対策は、普段から備えていることこそ、被害を最小限に食い止めるために最も重要である。そのため、緊急時の避難場所・避難経路・警戒区域などの確認をはじめ、避難情報を入手する手段を確保しておくことなど、福祉サービス事業者や地域活動などを通して周知と徹底を図るとともに、避難が困難な状況の障害者等を支援する体制の強化を図る必要がある。

第3章 住民懇談会から見た課題

(1) 住民主体の交流活動の場の構築を支援する必要がある

住民主体の交流活動の場（サードプレイス）の構築を推進するためには、公共施設に限らず、地域にある様々な場所やスペースを活用することが重要である。そのため、地域住民自身が気軽に利用できる場となるよう、地域住民の主体的な取組として、その視点や、アイデア、自主性を生かすとともに、市や関係機関がコーディネートや支援を行いながら取組を進めていく必要がある。

(2) 誰もが活動しやすく、参加しやすい地域の居場所の充実が重要である

住民主体の交流活動の場（サードプレイス）においてできたらいいことは、誰もが気楽に楽しめることや多世代の交流につながることに加えて、参加者同士の学び合いや困りごとを解決できる場になることが求められている。また、気軽に参加できるよう、特に何もしなくてもいい雰囲気も重要であることが明らかとなった。そのため、こうした住民のニーズ等を踏まえて、誰もが活動しやすく、参加しやすい地域の居場所の充実に取り組む必要がある。

(3) 地域の資源の活用をはじめとして、多様な方法で情報を発信する必要がある

住民主体の交流活動の場（サードプレイス）やその活動を多くの人に知ってもらうために、地域の資源も活用しながら、多様な方法で情報を発信していくことが必要である。住民がその情報を目にする機会が増えることにより、地域に関心のなかった人が興味を持つことにつながり、また、居場所を自分たちで作るきっかけにつながることを期待される。そのため、多様な方法で情報を発信し、地域の居場所や活動に多くの人に参加することにより、地域交流や地域のつながりの構築が促進されるよう、支援をする必要がある。



刊行物番号

2022—282

調布市民福祉ニーズ調査報告書
概要版

発行：令和5年3月

編集：調布市 福祉健康部 福祉総務課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1

電話 042-481-7101, 7102 Fax 042-481-7058